

水稲病害虫防除指針

目 次

水稲改正事項一覧表	2
1 掲載農薬一覧	3
2 同時防除用混合剤	8
3 防除方法	11
種子消毒	11
(ばか苗病、いもち病、ごま葉枯病、もみ枯細菌病、苗立枯細菌病)	
苗立枯病	12
もみ枯細菌病	13
苗立枯細菌病	13
黄化萎縮病	13
ばか苗病	13
いもち病	14
紋枯病	16
小粒菌核病	16
稲こうじ病	17
白葉枯病	17
ごま葉枯病	17
褐色葉枯病	17
紅変米	17
イネドロオイムシ	18
イネミズゾウムシ	19
イネハモグリバエ	20
イネヒメハモグリバエ(イネミギワバエ)	20
イネカラバエ(イネキモグリバエ)	20
フタオビコヤガ(イネアオムシ)	20
ニカメイガ(ニカメイチュウ)	20
コブノメイガ	20
カメムシ類	21
セジロウンカ	22
ヒメトビウンカ	22
アワヨトウ	22
コバネイナゴ	23
4 航空防除(有人ヘリコプター・無人航空機)	24
5 ブームスプレーヤ(速度連動式少量散布機)	28
6 湛水直播栽培	29
7 乾田直播栽培	30

防除方法に記載された農薬には、それぞれのRACコードを()書きで示していますので、農薬を選択する際の参考としてください。

水稻

水稻改正事項一覧表

作目	病害虫名等	改正事項	改正内容
水稻	いもち病	防除方法 掲載農薬一覧	ブーン粒剤を採用 アイーナ5フロアブルを採用(○) ルーチン粒剤を削除
		防除方法 同時防除用混合剤	ブーンリガードパディート箱粒剤を採用 ツインパディート箱粒剤を削除 ルーチンアドマイヤー箱粒剤を削除 フルターボ箱粒剤を削除 サイクルヒット箱粒剤を削除
	紋枯病	防除方法 同時防除用混合剤	ブーンリガードパディート箱粒剤を採用(○) フルターボ箱粒剤を削除 サイクルヒット箱粒剤を削除
	稲こうじ病	防除方法 掲載農薬一覧	アイーナ5フロアブルを採用(○)
	イネミズゾウムシ	防除方法 同時防除用混合剤	ブーンリガードパディート箱粒剤を採用 ツインパディート箱粒剤を削除 ルーチンアドマイヤー箱粒剤を削除 フルターボ箱粒剤を削除 サイクルヒット箱粒剤を削除
	イネドロオイムシ	防除方法 同時防除用混合剤	ブーンリガードパディート箱粒剤を採用 ツインパディート箱粒剤を削除 ルーチンアドマイヤー箱粒剤を削除 フルターボ箱粒剤を削除 サイクルヒット箱粒剤を削除
	セジロウンカ	防除方法 掲載農薬一覧	トレボンスター粉剤DLを削除 バダントレボン粉剤DLを削除 エルサンバッサ粉剤20DLを削除
	ヒメトビウンカ	防除方法 掲載農薬一覧	トレボンスター粉剤DLを削除 バダントレボン粉剤DLを削除 エルサンバッサ粉剤20DLを削除
	コバネイナゴ	防除方法 掲載農薬一覧 同時防除用混合剤	ツインパディート箱粒剤を削除 ブーンリガードパディート箱粒剤を採用(○) バダントレボン粉剤DLを削除 エルサンバッサ粉剤20DLを削除
	カメムシ類	防除方法 掲載農薬一覧	トレボンスター粉剤DLを削除
乾田直播	フタオビコヤガ	防除方法 掲載農薬一覧	ブーンリガードパディート箱粒剤を採用(○) バダン粉剤DLを削除
		同時防除用混合剤	バダントレボン粉剤DLを削除
	ニカメイチュウ	防除方法 掲載農薬一覧	バダン粉剤DLを削除 バダントレボン粉剤DLを削除
	コブノメイガ	防除方法 掲載農薬一覧	バダン粉剤DLを削除 バダントレボン粉剤DLを削除
	イネヒメハモグリバエ	防除方法 同時防除用混合剤	ブーンリガードパディート箱粒剤を採用(○) フルターボ箱粒剤を削除 サイクルヒット箱粒剤を削除
乾田直播	紋枯病	防除方法	エバーゴルシードFSの使用時期を変更
	イネミズゾウムシ	防除方法 掲載農薬一覧	ヨーバルシードFSを採用(○) ルミビアFSを採用(○)

注) 県内の試験例はないが、以下の点から準拠して記載したもの

○：東北地域等の県外試験例による採用

1. 掲載農薬一覧

種子消毒剤

水稻P11参照

作物名：稲(箱育苗)

農薬名	F R A C コード	有効成分	適用病害虫名											
			苗立枯病	いもち病	紋枯病	小粒菌核病	稲こうじ病	白葉枯病	褐色葉枯病	ごま葉枯病	もみ枯細菌病	苗立枯細菌病		
タチガレエースM液剤	32 4	ヒドロキシイソキサゾール メタラキシルM	○											
タチガレエースM粉剤	32 4	ヒドロキシイソキサゾール メタラキシルM	○											
ダコニール1000	M05	T P N	○											
ダコニール粉剤	M05	T P N	○											
ナエファイン粉剤	U17	ピカルブトラゾクス	○											
ナエファインフロアブル	U17	ピカルブトラゾクス	○											
オラクル顆粒水和剤	21	アミスルプロム	○											
ヘッド顆粒水和剤	21	アミスルプロム	○											
	(28)	クロラントラニリプロール												
カスミン粒剤	24	カスガマイシン										○	○	
カスミン液剤	24	カスガマイシン										○		
ファーストオリゼ箱粒剤	P02	プロベナゾール		○										
D r .オリゼ箱粒剤	P02	プロベナゾール		○										
ブイゲット箱粒剤	P03	チアジニル		○										
ブイゲットフロアブル	P03	チアジニル		○										
ルーチンフロアブル	P03	イソチアニル		○										
スタウト顆粒水和剤	P03	イソチアニル		○										
ブーン粒剤	P08	ジクロベンチアゾクス		◎										

()はIRACコードを示す。

イソチアニル混合箱粒剤（ルーチン、シャリオ、エバーゴル、スタウト、ツイン、箱大臣、フルターボ、サイクルヒット、ハコナイト、ヨーバルトップ、稲大将）、ピロキロン混合箱粒剤（デジタル）、トルプロカルブ混合箱粒剤（ゴウケツバスター、トリプルキック）、チフルザミド混合箱粒剤（グレータム、G T、シャリオ）、ペンフルフェン混合箱粒剤（エバーゴル、ルーチンエキスパート、Cs.オリゼリディアEV）、フラメトビル混合箱粒剤（箱大臣、フルターボ、サイクルヒット）、ジクロベンチアゾクス混合箱粒剤（ブーン）は水稻P8～9参照。

【重要】育苗後、苗床跡に他作物を栽培する場合の箱施用剤は、以下のいずれかで処理する。

- ① は種時～育苗期間に処理する場合は、箱施用した農薬が置床にこぼれ落ちないように、またかん水とともに置床に浸透しないように、プール育苗にするか置床にビニルなどの無孔シートを敷く。
- ② 移植時に処理する場合は、ハウス外で行うか、ハウス内で行う場合はビニルなどの無孔シートの上で行い、置床に農薬がこぼれ落ちないようにする。

作物名: 稲

農薬名	F R A C コ ー ド	有効成分	適用病害虫名									
			苗立枯病	いもち病	紋枯病	小粒菌核病	稲こうじ病	白葉枯病	褐色葉枯病	ごま葉枯病	もみ枯細菌病	苗立枯細菌病
カスミン液剤	24	カスガマイシン		○								
ラブサイドフロアブル	16.1	フサライド		○								
ブラシンフロアブル	U14 16.1	フェリムゾン フサライド		○						○		
ブラシン粉剤D L	U14 16.1	フェリムゾン フサライド		○						○		
ノンプラスフロアブル	U14 16.1	フェリムゾン トリシクラゾール		○						○		
ノンプラス粉剤D L	U14 16.1	フェリムゾン トリシクラゾール		○						○		
ビームゾル	16.1	トリシクラゾール		○								
ビーム粉剤D L	16.1	トリシクラゾール		○								
コラトップ粒剤5	16.1	ピロキロン		○								
コラトップジャンボP	16.1	ピロキロン		○								
ダブルカットフロアブル	24 16.1	カスガマイシン トリシクラゾール		○								
トルプロカルブ粒剤3%*	16.3	トルプロカルブ		○								
フジワン乳剤	6	イソプロチオラン		○								
フジワン粒剤	6	イソプロチオラン				○						
フジワン1キロ粒剤	6	イソプロチオラン		○								
トップジンMゾル	1	チオファネートメチル		○								
オリゼメート粒剤	P02	プロベナゾール		○					○			
オリブライト250G	11	メトミノストロピン		○						○		
ブイゲット粒剤	P03	チアジニル		○								
トライフロアブル	U16	テブフロキン		○			○					
アイーナ5フロアブル	52	キノフメリン		○			○					
バリダシン液剤5	U18	バリダマイシン			○							
バリダシン粉剤D L	U18	バリダマイシン			○							
バシタック水和剤75	7	メプロニル			○							
モンカットファイン粉剤20D L	7	フルトラニル			○							
モンカットフロアブル	7	フルトラニル			○							
モンセレンフロアブル	20	ペンシクロン			○							
モンセレン粉剤D L	20	ペンシクロン			○							
リンバー粒剤	7	フラメトピル			○							
モンガリット1キロ粒剤	3	シメコナゾール			○		○					
モンガリット粒剤	3	シメコナゾール			○		○					
ドイツボルドーA	M01	塩基性塩化銅					○					
Zボルドー粉剤D L	M01	塩基性硫酸銅					○					

ごま葉枯病:ごま葉枯病菌による「穂枯れ」

*トルプロカルブ粒剤(3%):サンプラス粒剤、ゴウケツ粒剤

作物名：稲(箱育苗)

農薬名	I R A C コ ド	有効成分	適用病害虫名														
			イ ネ ド ロ オ イ ム シ	イ ネ ハ モ グ リ バ エ	イ ネ ヒ メ ハ モ グ リ バ エ	イ ネ カ ラ バ エ	フ タ オ ビ コ ヤ ガ	ニ カ メ イ チ ユ ウ	コ ブ ノ メ イ ガ	セ ジ ロ ウ ン カ	ヒ メ ト ビ ウ ン カ	ア ワ ヨ ト ウ	コ バ ネ イ ナ ゴ	イ ネ ミ ズ ゾ ウ ム シ	カ メ ム シ 類		
パダン粒剤4	14	カルタップ	○	○													
ガゼット粒剤	1A	カルボスルフアン	○														
オンコル粒剤5	1A	ベンフラカルブ	○														
グランドオンコル粒剤	1A	ベンフラカルブ	○			○											
ギヤング粒剤	1A 2B	カルボスルフアン フィプロニル	○								○		○				
プリンス粒剤*	2B	フィプロニル	○		○*	○				○	○		○*		○		
プリンススピノ粒剤6	2B 5	フィプロニル スピノサド	○										○		○		
ガードナーフロアブル	5 4A	スピノサド イミダクロプリド	○												○		
アドマイヤーCR箱粒剤	4A	イミダクロプリド	○												○		
アドマイヤー顆粒水和剤	4A	イミダクロプリド	○												○		
バリアード箱粒剤	4A	チアクロプリド	○												○		
ダントツ箱粒剤	4A	クロチアニジン	○		○										○		
ワンリード箱粒剤08	4A	クロチアニジン	○												○		
ダントツ水溶剤	4A	クロチアニジン	○												○		
ジノテフラン箱粒剤(2%)*	4A	ジノテフラン	○												○		
ジノテフラン箱粒剤(12%)**	4A	ジノテフラン	○			○									○		
フェルテラ スタークル箱粒剤CU	4A 28	ジノテフラン クロラントラニプロール													○		
フェルテラ箱粒剤*	28	クロラントラニプロール	○*		○*	○									○*		
パディーT箱粒剤	28	シアントラニプロール	○		○										○		
バズ顆粒水和剤	28	シアントラニプロール	○												○		
ヘッド顆粒水和剤	28 (21)	クロラントラニプロール アミスルプロム	○												○		
ミネクトスター顆粒水和剤	28 9B	シアントラニプロール ピメトロジン	○												○	○	
リディアNT箱粒剤*	4F	フルピリミン			○*	○									○	○*	
リディア箱粒剤	4F	フルピリミン	○		○	○									○	○	
アレス箱粒剤	37	オキサザスルフィル													○		

* ジノテフラン箱粒剤(2%)：スタークル箱粒剤、アルバリン箱粒剤

** ジノテフラン箱粒剤(12%)：スターダム箱粒剤、アトラクトン箱粒剤

※：高密度は種苗でも一定の効果が期待できるが、使用の際は以下に留意する。

【高密度は種苗で使用する際の注意事項】

- ① 登録内容を逸脱しないよう10a当りの使用育苗箱数を確認の上、育苗箱1枚当りの処理薬量を調整する。
- ② 箱当りの処理薬量を慣行量のまま疎植すると、10a当りの処理薬量が減るため効果が不安定となる恐れがある。
また、耐性菌、抵抗性害虫の発生を助長する恐れがあることから、必ずローテーションで使用する。

【重要】育苗後、苗床跡に他作物を栽培する際の箱施用剤は、以下のいずれかで処理する。

- ① は種時～育苗期間に処理する場合は、箱施用した農薬が置床にこぼれ落ちないように、またかん水とともに農薬が置床に浸透しないように、プール育苗にするか置床にビニルなどの無孔シートを敷く。
- ② 移植時に処理する場合は、ハウス外で行うか、ハウス内で行う場合はビニルなどの無孔シートの上で行い、置床に農薬がこぼれ落ちないようにする。

作物名：稲

農薬名	I R A C コード	有効成分	適用病害虫名													
			イネドロオイムシ	イネハモグリバエ	イネヒメハモグリバエ	イネカラバエ	フタオビコヤガ	ニカメイチュウ	コブノメイガ	セジロウンカ	ヒメトビウンカ	アワヨトウ	コバネイナゴ	イネミズゾウムシ	カメムシ類	
パダンSG水溶剤	14	カルタップ	○					○							○	
パダン粒剤4	14	カルタップ						○								
エルサン乳剤	1B	PAP		○	○											○
エルサン粉剤2	1B	PAP		○	○											
スミチオン乳剤 [※]	1B	MEP		○	○		○	○				○				○
スミチオン粉剤2DL	1B	MEP						○		○						○
スミチオン粉剤3DL	1B	MEP										○				○
マラソン乳剤	1B	マラソン								○						
トレボン粉剤DL	3A	エトフェンプロックス	○							○	○		○			○
トレボン粒剤	3A	エトフェンプロックス	○												○	
トレボン乳剤	3A	エトフェンプロックス								○	○		○			○
トレボンEW	3A	エトフェンプロックス											○			○
なげこみトレボン	3A	エトフェンプロックス	○												○	
トレボンMC	3A	エトフェンプロックス											○			○
スミチオントレボン粉剤DL	3A 1B	エトフェンプロックス MEP											○			○
スミチオントレボン乳剤	3A 1B	エトフェンプロックス MEP											○			
ジノテフラン粒剤 [*]	4A	ジノテフラン	○													○
ジノテフラン1キロ粒剤 [*]	4A	ジノテフラン														○

※：メーカーによって適用が異なるので、使用基準を確認して使用する。

* ジノテフラン粒剤：スタークル粒剤、アルバリン粒剤

ジノテフラン1キロ粒剤：スタークル1キロH粒剤、スタークルメイト1キロH粒剤

農薬名	I R A C コ ード	有効成分	適用病害虫名												
			イ ネ ド ロ オ イ ム シ	イ ネ ハ モ グ リ バ エ	イ ネ ヒ メ ハ モ グ リ バ エ	イ ネ カ ラ バ エ	フ タ オ ビ コ ヤ ガ	ニ カ メ イ チ ユ ウ	コ ブ ノ メ イ ガ	セ ジ ロ ウ ン カ	ヒ メ ト ビ ウ ン カ	ア ワ ヨ ト ウ	コ バ ネ イ ナ ゴ	イ ネ ミ ズ ゾ ウ ム シ	カ メ ム シ 類
ジノテフラン液剤*	4A	ジノテフラン								○	○				○
ジノテフラン顆粒水溶剤*	4A	ジノテフラン													○
ジノテフラン粉剤*	4A	ジノテフラン								○	○		○		○
ダントツ水溶剤	4A	クロチアニジン													○
ダントツ粒剤	4A	クロチアニジン								○					○
ダントツ粉剤DL	4A	クロチアニジン	○							○	○		○		○
ダントツフロアブル	4A	クロチアニジン											○		○
ダントツH粉剤DL	4A	クロチアニジン								○	○		○		○
エクシードフロアブル	4C	スルホキサフロル											○		○
エクシード粉剤DL	4C	スルホキサフロル								○	○				○
キラップフロアブル	2B	エチプロール	○							○	○		○		○
キラップ粉剤DL	2B	エチプロール	○										○		○
エミリアフロアブル	4F	フルピリミン	○								○				

* ジノテフラン液剤：スタークル液剤10、スタークルメイト液剤10
 ジノテフラン顆粒水溶剤：スタークル顆粒水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤
 ジノテフラン粉剤：スタークル粉剤DL、アルバリン粉剤DL

作物名：水田作物、畑作物(休耕田)

適用場所：ヨシ、オギ、ススキ、セイタカアワダチソウ等の多年生雑草が優占している休耕田

農薬名	I R A C コ ード	有効成分	適用病害虫名												
			カ メ ム シ 類												
スミチオン乳剤*	1B	ME P	○												
スミチオン粉剤2DL	1B	ME P	○												
スミチオン粉剤3DL*	1B	ME P	○												
トレボン乳剤	3A	エトフェンプロックス	○												
トレボンEW	3A	エトフェンプロックス	○												
トレボンMC	3A	エトフェンプロックス	○												
トレボン粉剤DL	3A	エトフェンプロックス	○												
ジノテフラン液剤*	4A	ジノテフラン	○												
ジノテフラン顆粒水溶剤*	4A	ジノテフラン	○												
ジノテフラン粉剤*	4A	ジノテフラン	○												
ダントツ水溶剤	4A	クロチアニジン	○												
ダントツ粉剤DL	4A	クロチアニジン	○												
ダントツH粉剤DL	4A	クロチアニジン	○												
キラップフロアブル	2B	エチプロール	○												
キラップ粉剤DL	2B	エチプロール	○												

※：メーカーによって適用が異なるので、使用基準を確認して使用する。

* ジノテフラン液剤：スタークル液剤10、スタークルメイト液剤10
 ジノテフラン顆粒水溶剤：スタークル顆粒水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤
 ジノテフラン粉剤：スタークル粉剤DL、アルバリン粉剤DL

2. 同時防除用混合剤

病害虫によっては防除時期がほぼ同じ時期のものがあるため、同時防除用混合剤を使用すると効果的である。病害虫の発生状況、発生予測などに注意して農薬を選定する。

(1) 育苗箱施用混合剤

農薬名	F R A C コード	I R A C コード	有効成分	適用病害虫名													
				いもち病	紋枯病	稲こうじ病	イネミズゾウムシ	イネドロオイムシ	セジロウンカ	ヒメトビウンカ	コバネイナゴ	カメムシ類	イネカラバエ	フタオビコヤガ	イネヒメハモグリバエ		
デジタルコラトップアクタラ箱粒剤	16.1	4A	ピロキロン チアメトキサム	◎			◎	◎									
デジタルメガフレア箱粒剤	16.1	4A	ピロキロン チアメトキサム	○			◎	◎	◎	◎		◎					
デジタルミネクト箱粒剤	16.1	28	ピロキロン シアントラニリプロール	◎			◎	◎				◎					
OATジャッジ箱粒剤	P02	1A	プロベナゾール ベンフラカルブ	◎			◎	◎									
ファーストオリゼフェルテラ粒剤	P02	28	プロベナゾール クロラントラニリプロール	○			○	○									
ファーストオリゼパディート粒剤	P02	28	プロベナゾール シアントラニリプロール	◎								◎					○
Dr.オリゼプリンススピノ粒剤6	P02	2B 5	プロベナゾール フィプロニル スピノサド	○			○	○				○					
Dr.オリゼスタークル箱粒剤OS	P02	4A	プロベナゾール ジノテフラン	○			◎	◎									
ロングリーチ箱粒剤	P02	4A	プロベナゾール ジノテフラン	○			○	○						○			
Dr.オリゼパディート粒剤	P02	28	プロベナゾール シアントラニリプロール	◎			◎	◎									
Dr.オリゼフェルテラ粒剤	P02	28	プロベナゾール クロラントラニリプロール	○			◎	◎								○	○
Dr.オリゼフェルテラグレータム粒剤	P02 7	28	プロベナゾール チフルザミド クロラントラニリプロール	○	○		○	○								○	
リディアEV箱粒剤	7	4F	ペンフルフェン フルピリミン				○	○				○					
Cs.オリゼリディアEV箱粒剤	P02 7	4F	プロベナゾール ペンフルフェン フルピリミン	○	○		○	○				○					
Cs.オリゼリディア箱粒剤	P02	4F	プロベナゾール フルピリミン	○			○	○				○					
Cs.オリゼパディート箱粒剤	P02	28	プロベナゾール シアントラニリプロール	◎			○	○				◎					
GPオリゼリディア箱粒剤	P02	4F	プロベナゾール フルピリミン	○			◎	◎				○		○			○
ファーストオリゼリディア粒剤	P02	4F	プロベナゾール フルピリミン	○			◎	◎				○					
Dr.オリゼリディア箱粒剤	P02	4F	プロベナゾール フルピリミン	◎			◎	◎						◎			◎
ブイゲットアドマイヤー粒剤	P03	4A	チアジニル イミダクロプリド	◎			◎	◎									
ブイゲットグランドオンコル粒剤	P03	1A	チアジニル ベンフラカルブ	◎			◎	◎						◎			
ブイゲットバリアード粒剤	P03	4A	チアジニル チアクロプリド	○			○	○									
ブイゲットフェルテラ粒剤	P03	28	チアジニル クロラントラニリプロール	○			○	○							◎	○	
ブイゲットパディート粒剤	P03	28	チアジニル シアントラニリプロール	○			◎	◎				◎					◎
ルーチンバリアード箱粒剤	P03	4A	イソチアニル チアクロプリド	◎			○	○									
ルーチンアドスピノ箱粒剤	P03	4A 5	イソチアニル イミダクロプリド スピノサド	○			○	○									◎
ルーチンアドスピノGT箱粒剤	P03 7	4A 5	イソチアニル チフルザミド イミダクロプリド スピノサド	○	○		○	○								○	
シャリオ箱粒剤	P03 7	4A 5	イソチアニル チフルザミド イミダクロプリド スピノサド	○	○		○	○								○	
エバーゴルフオルテ箱粒剤	P03 7	4A	イソチアニル ペンフルフェン イミダクロプリド	○	○		○	○									

農薬名	F R A C コード	I R A C コード	有効成分	適用病害虫名												
				いもち病	紋枯病	稲こうじ病	イネミズゾウムシ	イネドロオイムシ	セジロウンカ	ヒメトビウンカ	コバネイナゴ	カメムシ類	イネカラバエ	フタオビコヤガ	イネヒメハモグリバエ	
ルーチンエキスパート箱粒剤	P037	4A5	イソチアニル ペンフルフェン イミダクロプリド スピノサド	○	○		○	○								○
エバーゴルワイド箱粒剤	P037	4A28	イソチアニル ペンフルフェン イミダクロプリド クロラントラニプロール	○	◎		○	○								○
エバーゴルプラス箱粒剤	P037	4A28	イソチアニル ペンフルフェン イミダクロプリド クロラントラニプロール	○	○		○	○								○
ルーチントレス箱粒剤	P03	4A28	イソチアニル イミダクロプリド クロラントラニプロール	◎			○	○								○
スタウトダントツ箱粒剤08	P03	4A	イソチアニル クロチアニジン	◎			◎	◎								
ツインターボ箱粒剤08	P03	4A	イソチアニル クロチアニジン	◎			◎	◎								
ツインターボ顆粒水和剤	P03	4A	イソチアニル クロチアニジン	◎			○	○								
箱大臣粒剤	P037	4A	イソチアニル フラメトビル クロチアニジン	◎	◎		○	○								
ルーチンデュオ箱粒剤	P03	28	イソチアニル シアントラニプロール	◎			◎	◎			◎					
ルーチンパンチ箱粒剤	P03	28	イソチアニル シアントラニプロール	◎			◎	◎			◎					
スタウトパディート箱粒剤	P03	28	イソチアニル シアントラニプロール	◎			◎	◎			◎					
ミネクトブラスター顆粒水和剤	P03	28	イソチアニル シアントラニプロール	○			◎	◎								
ミネクトフォルスターSC	P037	28	イソチアニル ペンフルフェン シアントラニプロール	○	○		○	○								
ハコナイト粒剤	P03	2B4A	イソチアニル フィプロニル クロチアニジン	○			○	○			◎					
ゴウケツバスター箱粒剤	16.3	4A	トルプロカルフ ジノテフラン	◎			◎	○							○	
トリプルキック箱粒剤	16.3	28	トルプロカルフ シメコナゾール シアントラニプロール	◎	◎	◎	○	○			◎					
ブーンパディート箱粒剤	P08	28	ジクロベンチアゾクス シアントラニプロール	◎			◎	◎			○				○	○
ブーンアレス箱粒剤	P08	-	ジクロベンチアゾクス オキサゾスルフィル	◎			◎	◎								
レシードプラス箱粒剤	P08	28	ジクロベンチアゾクス テトラニプロール								◎					
ブーンレパード箱粒剤	P087	28	ジクロベンチアゾクス ペンフルフェン テトラニプロール	◎	○		◎	◎								
スタウトアレス箱粒剤	P03	-	イソチアニル オキサゾスルフィル	○							◎					
ヨーバルトップ箱粒剤	P03	28	イソチアニル テトラニプロール	◎												
スタウトアレスモンガレス箱粒剤	P037	-	イソチアニル インピルフルキサム オキサゾスルフィル	◎												
稲大将箱粒剤	P037	-	イソチアニル インピルフルキサム オキサゾスルフィル	◎												
ブーンリガードパディート箱粒剤	P087	28	ジクロベンチアゾクス フルキサピロキサド シアントラニプロール	◎	○		○	○			○				○	○

◎：当該病害虫に農薬登録があり、青森県で効果確認されたもの
 ○：当該病害虫に農薬登録があり、単剤あるいは混合剤で効果が確認されたもの、または県内での適応性が確認されたもの。

【重要】育苗後、苗床跡に他作物を栽培する場合の箱施用剤は、以下のいずれかで処理する。

- ① は種時～育苗期間に処理する場合は、箱施用した農薬が置床にこぼれ落ちないように、またかん水とともに農薬が置床に浸透しないように、プール育苗にするか置床にビニルなどの無孔シートを敷く。
- ② 移植時に処理する場合は、ハウス外で行うか、ハウス内で行う場合はビニルなどの無孔シートの上で行い、置床に農薬がこぼれ落ちないようにする。

(2) 側条施用

農薬名	F R A C コード	I R A C コード	有効成分	適用病害虫名								
				いもち病	紋枯病	イネミズゾウムシ	イネドロオイムシ					
プリンス粒剤		2B	フィプロニル			○	○					
D r.オリゼフェルテラ粒剤	P02	28	プロベナゾール クロラントラニリプロール	◎		◎						
D r.オリゼバディート粒剤	P02	28	プロベナゾール シアントラニリプロール	◎		○	○					
トリプルキック箱粒剤	16.3 3	28	トルプロカルブ シメコナゾール シアントラニリプロール	○			○	○				
D r.オリゼフェルテラグレータム粒剤	P02 7	28	プロベナゾール チフルザミド クロラントラニリプロール	○			○	○				
箱大臣粒剤	P03 7	4A	イソチアニル フラメトビル クロチアニジン	○	◎		○	○				
ツインターボ箱粒剤08	P03	4A	イソチアニル クロチアニジン	○			○	○				
スタウトダントツ箱粒剤	P03	4A	イソチアニル クロチアニジン	○			○	○				
スタウトダントツ箱粒剤08	P03	4A	イソチアニル クロチアニジン	○			○	○				
ルーチンパンチ箱粒剤	P03	28	イソチアニル シアントラニリプロール	○			○	○				
ブーンバディート箱粒剤	P08	28	ジクロベンチアゾクス シアントラニリプロール	◎		◎	○					
ブーンレパード箱粒剤	P08 7	28	ジクロベンチアゾクス ペンフルフェン テトラニリプロール	○	○		○					
ゴウケツバスター箱粒剤	16.3	4A	トルプロカルブ ジノテフラン	◎			○	○				
リディアE V箱粒剤	7	4F	ペンフルフェン フルピリミン				○					
C s.オリゼリディアE V箱粒剤	P02 7	4F	プロベナゾール ペンフルフェン フルピリミン					○				
C s.オリゼリディア箱粒剤	P02	4F	プロベナゾール フルピリミン	○			○	○				
D r.オリゼリディア箱粒剤	P02	4F	プロベナゾール フルピリミン	○			○					
G Pオリゼリディア箱粒剤	P02	4F	プロベナゾール フルピリミン	○			○	○				
デジタルメガフレア箱粒剤	16.1	4A	ピロキロン チアメトキサム	○								

◎：当該病害虫に農薬登録があり、青森県で効果確認されたもの

○：当該病害虫に農薬登録があり、単剤あるいは混合剤で効果が確認されたもの、または県内での適応性が確認されたもの。

(3) ペースト肥料混和

農薬名	F R A C コード	I R A C コード	有効成分	適用病害虫名								
				いもち病	イネミズゾウムシ	イネドロオイムシ						
ツインターボ顆粒水和剤	P03	4A	イソチアニル クロチアニジン	○			○	○				
側条オリゼメートリディア顆粒水和剤	P02	4F	プロベナゾール フルピリミン	○		○						
オリゼメート顆粒水和剤	P02		プロベナゾール	○								
側条パダンオリゼメート顆粒水和剤	P02 U19	14	プロベナゾール カルタップ	◎			◎	◎				

◎：当該病害虫に農薬登録があり、青森県で効果確認されたもの

○：当該病害虫に農薬登録があり、単剤あるいは混合剤で効果が確認されたもの、または県内での適応性が確認されたもの。

3. 防除方法

病害虫名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項																																																																																																																													
(種子消毒) ばか苗病 いもち病 ごま葉枯病 もみ枯細菌病 苗立枯細菌病 浸種前	[耕種的防除法] 1 種籾は食塩を用いて塩水選する。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>比重</th> <th>水100当たり食塩量 (目安)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>うるち</td> <td>1.13</td> <td>2.0~2.1kg</td> </tr> <tr> <td>もち</td> <td>1.08</td> <td>1.2kg</td> </tr> </tbody> </table> 2 温湯種子消毒法 (1) 種籾は比重選別機などの塩水選以外の方法で選別されたものをを用いる。 (2) 一定の温度が保てる機器を用い、種籾を58℃20分間もしくは60℃10~15分間、温湯に浸漬する。 (3) 温湯浸漬後は直ちに水(水道水などの清浄な水)で冷却し、その後は土埃などがかからないように通常と同様の浸漬管理をする。 (4) 温湯処理した種籾は、芽が伸びすぎないように催芽管理する。	区分	比重	水100当たり食塩量 (目安)	うるち	1.13	2.0~2.1kg	もち	1.08	1.2kg	○ 塩水選実施上の注意 (1) 食塩は完全に溶かして使用する。 (2) 比重は随時比重計で調整する。 (3) 塩水選後は水洗いを十分行う。 ○ 温湯種子消毒法の注意事項 (1) 「つがるロマン」、「まっしぐら」、「青天の霹靂」、「はれわたたり」、「華吹雪」、「華想い」、「吟鳥帽子」、「ゆたかまる」以外の品種は、あらかじめ本法による発芽率が90%以上となるか確認しておく。 「あおばまる」は発芽率が大幅に低下しやすいことから本法は行わない。 (2) 割籾が極端に多い種子や、冷害年、登熟期が高温など、通常と異なる種籾の状態が想定される場合には、あらかじめ本法による発芽率が90%以上となるか確認しておく。 (3) 塩水選後から温湯浸漬までの時間が1~2時間を越えると、発芽率が急激に低下する。 (4) 温湯種子消毒法は、ばか苗病、いもち病、もみ枯細菌病、苗立枯細菌病などに効果があるが、化学合成農薬に比べて効果が劣る場合がある。また、ごま葉枯病には効果が期待できない。																																																																																																																				
	区分	比重	水100当たり食塩量 (目安)																																																																																																																												
うるち	1.13	2.0~2.1kg																																																																																																																													
もち	1.08	1.2kg																																																																																																																													
[薬剤による防除法] 農薬の種類と対象病害名	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">農薬名</th> <th rowspan="2">F R A C コード</th> <th rowspan="2">有効成分</th> <th rowspan="2">処 理 法 ()内の数字は次ページの防除方法に対応</th> <th rowspan="2">風乾²⁾</th> <th colspan="5">対象病害名</th> </tr> <tr> <th>ばか苗病</th> <th>いもち病</th> <th>ごま葉枯病</th> <th>もみ枯細菌病</th> <th>苗立枯細菌病</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ヘルシード乳剤</td> <td>3</td> <td>ペフラゾエート</td> <td>(1) 20倍、10分間 (3) 200倍、24時間</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>トリフミン水和剤</td> <td>3</td> <td>トリフルミゾール</td> <td>(1) 30倍、10分間 (2) 0.5%、湿粉衣</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>トリフミン乳剤</td> <td>3</td> <td>トリフルミゾール</td> <td>(1) 30倍、10分間 (3) 300倍、24時間 (4) 5~10倍、30ml/kg塗沫</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>スポルタック乳剤</td> <td>3</td> <td>ブロクロラズ</td> <td>(1) 100倍、10分間 (3) 1000倍、24時間</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>スターナ水和剤^{Y)}</td> <td>31</td> <td>オキシリニック酸</td> <td>(1) 20倍、10分間 (2) 0.5%、湿粉衣 (3) 200倍、24時間</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>テクリードCフロアブル</td> <td>3 M01</td> <td>イブコナゾール 水酸化第二銅</td> <td>(1) 20倍、10分間 (3) 200倍、24時間</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>ヘルシードTフロアブル</td> <td>3 M03</td> <td>ペフラゾエート チウラム</td> <td>(1) 20倍、10分間 (3) 200倍、24時間</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>モミガードC水和剤</td> <td>3 12 M01</td> <td>ペフラゾエート フルジオキシニル 塩基性塩化銅</td> <td>(2) 0.5%、湿粉衣 (3) 200倍、24時間 (4) 7.5倍、3%塗沫</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>モミガードC・DF</td> <td>3 12 M01</td> <td>ペフラゾエート フルジオキシニル 塩基性塩化銅</td> <td>(3) 200倍、24時間 (4) 7.5倍、3%塗沫</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>エコホープD J (生物農薬)</td> <td>BM2</td> <td>トリコデルマ アトピリデ</td> <td>(5) 200倍、24時間(~48時間) (5) 200倍、24時間</td> <td>×</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>タフブロック (生物農薬)</td> <td>BM2</td> <td>クラロマイセス フラバス</td> <td>(6) 200倍、24時間 (7) 20倍、1時間 (8) 4%、湿粉衣</td> <td>△</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> </tbody> </table>	農薬名	F R A C コード	有効成分	処 理 法 ()内の数字は次ページの防除方法に対応	風乾 ²⁾	対象病害名					ばか苗病	いもち病	ごま葉枯病	もみ枯細菌病	苗立枯細菌病	ヘルシード乳剤	3	ペフラゾエート	(1) 20倍、10分間 (3) 200倍、24時間	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	トリフミン水和剤	3	トリフルミゾール	(1) 30倍、10分間 (2) 0.5%、湿粉衣	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	トリフミン乳剤	3	トリフルミゾール	(1) 30倍、10分間 (3) 300倍、24時間 (4) 5~10倍、30ml/kg塗沫	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	スポルタック乳剤	3	ブロクロラズ	(1) 100倍、10分間 (3) 1000倍、24時間	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	スターナ水和剤 ^{Y)}	31	オキシリニック酸	(1) 20倍、10分間 (2) 0.5%、湿粉衣 (3) 200倍、24時間	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	テクリードCフロアブル	3 M01	イブコナゾール 水酸化第二銅	(1) 20倍、10分間 (3) 200倍、24時間	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	ヘルシードTフロアブル	3 M03	ペフラゾエート チウラム	(1) 20倍、10分間 (3) 200倍、24時間	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	モミガードC水和剤	3 12 M01	ペフラゾエート フルジオキシニル 塩基性塩化銅	(2) 0.5%、湿粉衣 (3) 200倍、24時間 (4) 7.5倍、3%塗沫	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	モミガードC・DF	3 12 M01	ペフラゾエート フルジオキシニル 塩基性塩化銅	(3) 200倍、24時間 (4) 7.5倍、3%塗沫	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	エコホープD J (生物農薬)	BM2	トリコデルマ アトピリデ	(5) 200倍、24時間(~48時間) (5) 200倍、24時間	×	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	タフブロック (生物農薬)	BM2	クラロマイセス フラバス	(6) 200倍、24時間 (7) 20倍、1時間 (8) 4%、湿粉衣	△	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
農薬名	F R A C コード						有効成分	処 理 法 ()内の数字は次ページの防除方法に対応	風乾 ²⁾	対象病害名																																																																																																																					
		ばか苗病	いもち病	ごま葉枯病	もみ枯細菌病	苗立枯細菌病																																																																																																																									
ヘルシード乳剤	3	ペフラゾエート	(1) 20倍、10分間 (3) 200倍、24時間	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																																																																																																																						
トリフミン水和剤	3	トリフルミゾール	(1) 30倍、10分間 (2) 0.5%、湿粉衣	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																																																																																																																						
トリフミン乳剤	3	トリフルミゾール	(1) 30倍、10分間 (3) 300倍、24時間 (4) 5~10倍、30ml/kg塗沫	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																																																																																																																						
スポルタック乳剤	3	ブロクロラズ	(1) 100倍、10分間 (3) 1000倍、24時間	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																																																																																																																						
スターナ水和剤 ^{Y)}	31	オキシリニック酸	(1) 20倍、10分間 (2) 0.5%、湿粉衣 (3) 200倍、24時間	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																																																																																																																						
テクリードCフロアブル	3 M01	イブコナゾール 水酸化第二銅	(1) 20倍、10分間 (3) 200倍、24時間	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																																																																																																																						
ヘルシードTフロアブル	3 M03	ペフラゾエート チウラム	(1) 20倍、10分間 (3) 200倍、24時間	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																																																																																																																						
モミガードC水和剤	3 12 M01	ペフラゾエート フルジオキシニル 塩基性塩化銅	(2) 0.5%、湿粉衣 (3) 200倍、24時間 (4) 7.5倍、3%塗沫	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																																																																																																																						
モミガードC・DF	3 12 M01	ペフラゾエート フルジオキシニル 塩基性塩化銅	(3) 200倍、24時間 (4) 7.5倍、3%塗沫	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																																																																																																																						
エコホープD J (生物農薬)	BM2	トリコデルマ アトピリデ	(5) 200倍、24時間(~48時間) (5) 200倍、24時間	×	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																																																																																																																						
タフブロック (生物農薬)	BM2	クラロマイセス フラバス	(6) 200倍、24時間 (7) 20倍、1時間 (8) 4%、湿粉衣	△	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																																																																																																																						

Z) 種子消毒後の風乾の有無

- ：風乾する。
- ：風乾を省略できる。
- △：直射日光や極端な高温を避ける。
- ×：風乾せずに直ちに浸種あるいは催芽を行う。

Y) ばか苗病、いもち病、ごま葉枯病に対する消毒を他の種子消毒剤にて必ず行う。

病害虫名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項
<p>(種子消毒)</p> <p>浸種前</p> <p>(生物農薬)</p>	<p>1 塩水選水洗い後、次のいずれかの方法で種粒を消毒する。 消毒後は常法によって浸種、催芽する。</p> <p>(1) 高濃度短時間浸漬法 種粒の水切りを十分に行ってから、所定濃度の薬液に種粒を10分間浸漬する。 ただし、トリフミン水和剤(F:3)、スターナ水和剤(F:31)は2日間風乾する。</p> <p>(2) 粉衣法(湿粉衣) 生乾き状態の種粒に粉衣する。 ただし、トリフミン水和剤(F:3)、スターナ水和剤(F:31)は2日間風乾する。</p> <p>(3) 低濃度長時間浸漬法 所定濃度の薬液に種粒を24時間浸漬する。 ただし、スターナ水和剤(F:31)は2日間風乾する。</p> <p>(4) 塗沫法 所定濃度の薬液を塗沫する。</p> <p>(5) 浸種前から催芽前のいずれかで、エコホープDJ(F:BM02)に24~48時間浸漬する。あるいは催芽時に24時間浸漬する。</p> <p>(6) 催芽前にタフブロック(F:BM02)に24~48時間浸漬する。あるいは催芽時に24時間浸漬する。</p> <p>(7) 浸種前から催芽前のいずれかでタフブロック(F:BM02)の20倍液に1時間浸漬する。</p> <p>(8) 浸種前に生乾き状態の種粒に、タフブロック(F:BM02)を湿粉衣する。風乾する場合は直射日光を避ける。</p>	<p>○ 種子消毒上の注意</p> <p>(1) 消毒及び浸種は屋内で行い、液温は10℃以下にならないように努める。</p> <p>(2) 高濃度短時間浸漬法による場合は、種粒をサラン網などの目の粗い網袋に入れ、薬液に浸漬したらよくゆすること。</p> <p>(3) 粉衣法による場合は、ビニール袋又は粉衣器に種粒と薬剤を入れてよく攪拌する。大量の粒を粉衣する場合は、ポットミキサーを利用すると便利である。</p> <p>(4) 低濃度長時間浸漬法の場合は、浸漬中2~3回薬液を攪拌する。</p> <p>(5) 消毒後の浸種はかけ流しを避け、水の交換は初めの2日間は行わない。その後、3日程度に1回静かに換水する。</p> <p>(6) 消毒後の種粒を河川、湖沼、ため池などに浸種すると病原菌に感染したり、種粒に付着した薬が魚介類に影響を及ぼすおそれがあるので、これらのところでは浸漬しない。また、残液や器具の洗浄液がこれらのところへ流入しないようにする。</p> <p>(7) 薬剤処理する場合、マスク、ゴム手袋などを着用する。</p> <p>(8) 消毒した種粒は、食用や家畜の飼料にしない。</p> <p>(9) 粒殻が裂けた種粒は化学合成農薬で種子消毒すると薬害を生じるので使用しない。</p> <p>(10) 循環式催芽機(ハト胸催芽機)は病原菌(細菌)の増殖を促進することがあるので消毒には使用しない。</p> <p>○ 薬剤感受性低下菌対策 青森県内においてブクロラズ剤に対する薬剤感受性低下菌が確認されているため、本剤の効力の低下が認められた場合は、使用を中止する。</p> <p>○ 催芽のときに使うわら類は、70℃以上の熱湯に20分間浸漬して消毒する。</p> <p>○ 生物農薬(生菌)は化学合成農薬に比べ効果が劣る場合があるので、病害におかされていない健全な種子を用いる。また割粒や傷粒が多い場合には使用しない。</p> <p>○ 生物農薬(生菌)は使用方法、注意事項、保管方法、最終有効年月を確認し、取り扱いに注意する。</p> <p>○ 他剤と併用すると十分に効果が発揮されない場合があるので、注意事項などをよく確認して使用する。</p>
<p>苗立枯病 (フザリウム)</p> <p>は種前</p> <p>育苗時</p> <p>は種前</p> <p>は種時</p> <p>発芽後</p>	<p>[耕種の防除法]</p> <p>1 種子消毒を徹底する。 2 土壌のpHを5.0前後に矯正する。</p> <p>3 育苗中の温度管理を徹底し、特に低温にならないようにする。また過湿にならないように十分注意する。</p> <p>[薬剤による防除法]</p> <p>1 次のいずれかを育苗箱土壌に均一に混和する。 タチガレエースM粉剤(F:32,4) ナエファイン粉剤(F:U17)</p> <p>2 次のいずれかを育苗箱に土壌かん注する。 タチガレエースM液剤(F:32,4) ナエファインフロアブル(F:U17)</p> <p>3 発病のごく初期に、タチガレエースM液剤(F:32,4)を育苗箱に土壌かん注する。</p>	<p>○ タチガレエースM粉剤の使用量は、箱当たりの土約50を基準としており、条播などの育苗では床土量が少なくなるので、薬剤をその比率で少なくする。</p> <p>○ タチガレエースM粉剤及び液剤は、ムレ苗防止効果がみられる。</p>
<p>苗立枯病 (ビシウム)</p> <p>は種前・育苗時</p> <p>は種前</p> <p>は種時</p> <p>発芽後</p>	<p>[耕種の防除法]</p> <p>1 苗立枯病(フザリウム)の項参照</p> <p>[薬剤による防除法]</p> <p>1 苗立枯病(フザリウム)の項参照</p> <p>2 次のいずれかを育苗箱に土壌かん注する。 タチガレエースM液剤(F:32,4) ナエファインフロアブル(F:U17) ヘッド顆粒水和剤(F:21, I:28) オラクル顆粒水和剤(F:21)</p> <p>3 苗立枯病(フザリウム)の項参照</p>	

病害虫名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項
苗立枯病 (リゾプス) は種前 は種時 育苗期 は種前 は種時 ～緑化期	[耕種的防除法] 1 土壌のpHを5.0前後に矯正する。 2 育苗箱など育苗用資材は水洗いを十分に行う。 3 傷籾は使用しない。 4 厚播は避ける。 5 温度管理に注意し高温にならないようにする。 6 過湿にならないようにする。 [薬剤による防除法] 1 は種5日前～は種前にダコニール粉剤(F:M05)を育苗箱土壌に均一に混和する。 2 ダコニール1000(F:M05)を育苗箱に土壌かん注する。	○ 稚苗では発生が多いので、は種前又は、は種時の予防防除を行う。 ○ 中苗で例年発生の見られている所では、予防防除を行う。 ○ ダコニール粉剤は砂質土壌では使用しない。 ○ ダコニール粉剤及びダコニール1000は、タチガレエースM液剤と同時使用できる。 ○ ダコニール1000の緑化期処理は、リゾプス菌の増殖後では効果が劣るので、早い時期に処理する。
もみ枯細菌病 浸種前 育苗時 田植時 出穂後 は種前 は種後覆土前	[耕種的防除法] 1 種籾は、無病ほ場から採種したものをを用いる。 2 本田発生地を苗代としない。また、その土壌で育苗しない。 3 種籾は塩水選する。 4 標準育苗法（土壌のpH、出芽温度など）を厳守する。特に、高温育苗やかん水を多くしない。 5 発病苗は植えない。 6 採種ほ場では、発病穂を見つけ次第抜き取る。 [薬剤による防除法] 1 育苗培土にカスミン粒剤(F:24)を均一に混和する。 2 カスミン粒剤(F:24)をは種した種籾の上から均一に散布する。 3 カスミン液剤(F:24)をは種した種籾の上から均一に散布する。	○ 本病は、育苗時では腐敗症、本田では出穂後に白穂症状を呈する。 ○ 苗腐敗症の特徴 罹病苗は細く湾曲して出芽し、その後、褐変して腐敗枯死する。症状が軽い場合は、新葉がねじれ、湾曲して出芽する。また、後期に感染した場合は、地際が褐変し、次いで出葉する新葉とその葉鞘は白色から濃褐色になり、後に腐敗枯死する。これらの症状は、激しく腐敗した苗を中心に周囲に広がり、坪枯れ症状を呈する。 ○ 発病穂の特徴 出穂後間もなく籾が灰白色に変色し、後に淡褐色となり稔実しない。変色は籾だけで枝梗や穂軸は緑色である。発生籾数が多い場合は傾穂しない。異常高温年に発生しやすい。
苗立枯細菌病 は種時 田植時 は種前 は種後覆土前	[耕種的防除法] 1 種籾は塩水選する。 2 標準育苗法（土壌のpH、出芽温度など）を厳守する。特に高温、過かん水にならないように注意する。 3 発病苗は植えない。 [薬剤による防除法] 1 育苗培土にカスミン粒剤(F:24)を均一に混和する。 2 カスミン粒剤(F:24)をは種した種籾の上から均一に散布する。	○ 本病は種子伝染し、出芽時及びその後の高温で発病が助長される。 ○ 人工培土や殺菌した土で育苗すると、多発する傾向がある。 ○ 症状の特徴 本病はハウス内栽培の育苗箱の苗に発生する。発病初期の苗では第2～3葉の葉身基部に顕著なクロロシス（退緑・黄白化）が見られ、根の発育が悪くなる。その後発病苗は萎ちようし、やがて全体が赤褐色になって乾燥枯死する。 クロロシスが現れる点と育苗箱中の苗が集団で発病するいわゆる「坪枯れ」が見られる点でも、もみ枯細菌病の苗腐敗によく似ている。しかし、もみ枯細菌病では基部が腐敗して芯葉が容易に引き抜けるのに対し、本病では腐敗しない点で異なる。
黄化萎縮病 は種前 苗代・本田 田植時	[耕種的防除法] 1 苗代は畑苗代方式とするか、又は冠浸水しないところを選ぶ。 2 冠水したら速やかに排水する。 3 常習発生地では、一株の植付本数を多くする。	○ 出水などにより苗代で冠水したものは田植えしない。 ○ 発病株は、いもち病の発生が多くなるのでいもち病防除を徹底する。
ばか苗病 浸種前 田植時 田植後 収穫時 浸種前	[耕種的防除法] 1 塩水選を行う。 2 罹病苗（徒長苗、わい小苗など）は見つけ次第抜き取る。 3 発生株は見つけしだい抜取り、土中に埋めるなど適切に処分する。 4 発生田やその近傍からは採種しない。 [薬剤による防除法] 1 種子消毒を行う。	○ 催芽時や苗代でのわら製品の使用は、再感染のおそれがあるので使用を避けるか、消毒したわら製品を使う。

病害虫名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項																																																																										
いもち病 は種前	[耕種的防除法] 1 抵抗性の強い品種を作付けする。 2 客土、堆肥、苦土珪カルなどを増施して地力の増強をはかるとともに、窒素質肥料を過用しない。	○ 感染に好適な条件 最低気温18℃が2日以上続いた場合や、最低気温が16℃以上に達して朝露や霧の晴れない日が続いた場合に感染しやすい。																																																																										
育苗期	3 育苗ハウス内外にもみ殻やわらなど伝染源になるものを置かない。	○ B L A S T A M (プラスタム) による葉いもち発生予察情報は、日本植物防疫協会が運営するJPP-NET (有料) で公開されている。																																																																										
生育期	4 生育が遅れないよう適正な栽培管理を行う。	○ 品種の抵抗性																																																																										
落水期	5 穂いもちの多発田では落水を1週間ほど遅らせる。 6 苗代で葉いもちにかかった苗を本田に植えることを「持ち込み」という。「持ち込み」は早期発生、多発の要因となる。	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">品種名</th> <th colspan="2">いもち病抵抗性※1</th> <th rowspan="2">種類</th> </tr> <tr> <th>葉いもち</th> <th>穂いもち</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>青天の霹靂</td> <td>極強</td> <td>強</td> <td>粳</td> </tr> <tr> <td>つがるロマン</td> <td>やや強</td> <td>中</td> <td>粳</td> </tr> <tr> <td>まっしぐら</td> <td>強</td> <td>やや強</td> <td>粳</td> </tr> <tr> <td>はれわたり</td> <td>強</td> <td>極強</td> <td>粳</td> </tr> <tr> <td>ほっかりん</td> <td>やや強</td> <td>やや強</td> <td>低アミノス米</td> </tr> <tr> <td>ゆきのはな</td> <td>極強</td> <td>極強</td> <td>低アミノス米</td> </tr> <tr> <td>あさゆき</td> <td>やや強</td> <td>強</td> <td>低アミノス米</td> </tr> <tr> <td>アネコモチ</td> <td>やや強</td> <td>中</td> <td>糯</td> </tr> <tr> <td>あかりもち</td> <td>強</td> <td>やや強</td> <td>糯</td> </tr> <tr> <td>華吹雪</td> <td>中</td> <td>中</td> <td>酒米</td> </tr> <tr> <td>華想い</td> <td>弱</td> <td>弱</td> <td>酒米</td> </tr> <tr> <td>華さやか</td> <td>極強</td> <td>極強</td> <td>酒米</td> </tr> <tr> <td>吟鳥帽子</td> <td>強</td> <td>やや強</td> <td>酒米</td> </tr> <tr> <td>式部糯</td> <td>中</td> <td>やや弱</td> <td>紫黒糯</td> </tr> <tr> <td>えみゆたか</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>飼料用</td> </tr> <tr> <td>ゆたかまる</td> <td>極強</td> <td>極強</td> <td>飼料用</td> </tr> <tr> <td>あおばまる※2</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>飼料用</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1: 東北新基準 (平成14年3月制定) に準拠 ※2: 「あおばまる」は現時点での発病はみとめられていないが、いもち病の発生が見られた場合はマニュアルに従い防除する。</p>	品種名	いもち病抵抗性※1		種類	葉いもち	穂いもち	青天の霹靂	極強	強	粳	つがるロマン	やや強	中	粳	まっしぐら	強	やや強	粳	はれわたり	強	極強	粳	ほっかりん	やや強	やや強	低アミノス米	ゆきのはな	極強	極強	低アミノス米	あさゆき	やや強	強	低アミノス米	アネコモチ	やや強	中	糯	あかりもち	強	やや強	糯	華吹雪	中	中	酒米	華想い	弱	弱	酒米	華さやか	極強	極強	酒米	吟鳥帽子	強	やや強	酒米	式部糯	中	やや弱	紫黒糯	えみゆたか	—	—	飼料用	ゆたかまる	極強	極強	飼料用	あおばまる※2	—	—	飼料用
品種名	いもち病抵抗性※1			種類																																																																								
	葉いもち	穂いもち																																																																										
青天の霹靂	極強	強	粳																																																																									
つがるロマン	やや強	中	粳																																																																									
まっしぐら	強	やや強	粳																																																																									
はれわたり	強	極強	粳																																																																									
ほっかりん	やや強	やや強	低アミノス米																																																																									
ゆきのはな	極強	極強	低アミノス米																																																																									
あさゆき	やや強	強	低アミノス米																																																																									
アネコモチ	やや強	中	糯																																																																									
あかりもち	強	やや強	糯																																																																									
華吹雪	中	中	酒米																																																																									
華想い	弱	弱	酒米																																																																									
華さやか	極強	極強	酒米																																																																									
吟鳥帽子	強	やや強	酒米																																																																									
式部糯	中	やや弱	紫黒糯																																																																									
えみゆたか	—	—	飼料用																																																																									
ゆたかまる	極強	極強	飼料用																																																																									
あおばまる※2	—	—	飼料用																																																																									
(葉いもち) 苗代期	[薬剤による防除法] 1 苗代の葉いもちに注意し、発生を認めたら直ちに薬剤を散布する。 2 抵抗性「中」以下の品種や、常発地などでは次の4、5、6、7、8、9、10のいずれかにより初発前から予防を行う。 3 深層追肥栽培では、追肥後2週間目頃から抵抗力が比較的弱くなるので、この頃から防除を徹底する。																																																																											
は種前	(育苗箱粒剤処理) 4 次の剤を床土に所定量を均一に混和する。 ファーストオリゼ箱粒剤 (F:P02) ファーストオリゼリディア箱粒剤 (F:P02, I:4F) ジクロベンチアゾクス混合箱粒剤 (F:P08, I:#)	○ 育苗箱の大きさは30cm×60cm×3cm。 ○ 育苗後、苗床跡に他作物を栽培する場合は、P水稲3の注意事項参照。																																																																										
は種時(覆土前)	5 は種前後(覆土前)に育苗箱の上から均一に散布する。 ファーストオリゼ箱粒剤 (F:P02) ファーストオリゼリディア箱粒剤 (F:P02, I:4F)	○ ジクロベンチアゾクス混合箱粒剤 (ブーン) はP水稲9参照。 ○ 混合剤のIRACコードは、混合されている殺虫剤成分により異なるため#で表記している。																																																																										
は種時(覆土前) ～移植当日	6 次のいずれかを育苗箱の(苗の)上から均一に散布する。 ブーン粒剤 (F:P08) イソチアニル混合箱粒剤 (F:P03, I:#) ジクロベンチアゾクス混合箱粒剤 (F:P08, I:#) D r . オリゼ箱粒剤 (F:P02) ブイゲット箱粒剤 (F:P03) G P オリゼリディア箱粒剤 (F:P02, I:4F) デジタルミネクト箱粒剤 (F:16.1, I:28)	○ イソチアニル混合箱粒剤 (ルーチン、シャリオ、エバーゴル、スタウト、ツイン、箱大臣、ハコナイト、ヨーバルトップ、稲大将) ピロキロン混合箱粒剤 (デジタル)、トルプロカルブ混合箱粒剤 (ゴウケツバスター、トリプルキック)、プロベナゾール混合箱粒剤 (ジャッジ、オリゼ、ロングリーチ) はP水稲8～9参照。																																																																										
緑化期 ～移植当日	D r . オリゼリディア箱粒剤 (F:P02, I:4F)																																																																											
移植10日前 ～移植当日	ピロキロン混合箱粒剤 (F:16.1, I:#) イソチアニル混合箱粒剤 (F:P03, I:#) トルプロカルブ混合箱粒剤 (F:16.3, I:#) プロベナゾール混合箱粒剤 (F:P02, I:#)	○ イソチアニルかん注剤 (ルーチンフロアブル、スタウト顆粒水和剤、ミネクトプラスター顆粒水和剤、ミネクトフォルスターSC) は、薬剤がこぼれ落ちたあとにキク等を栽培すると薬害 (生育抑制など) が生じる恐れがあるので、こぼれ落ちないように注意する。																																																																										
移植7日前 ～移植当日	D r . オリゼリディア箱粒剤 (F:P02, I:4F)																																																																											
移植3日前 ～移植当日	ピロキロン混合箱粒剤 (F:16.1, I:#) イソチアニル混合箱粒剤 (F:P03, I:#) トルプロカルブ混合箱粒剤 (F:16.3, I:#) プロベナゾール混合箱粒剤 (F:P02, I:#)																																																																											
は種時(覆土前) ～移植当日	(育苗箱液剤かん注処理) 7 次のいずれかを育苗箱の(苗の)上から均一にかん注する。 スタウト顆粒水和剤 (F:P03)																																																																											
移植10日前 ～移植当日	ミネクトプラスター顆粒水和剤 (F:P03, I:28) ミネクトフォルスターSC (F:P03, 7, I:28)																																																																											
移植3日前 ～移植当日	ルーチンフロアブル (F:P03) ブイゲットフロアブル (F:P03)																																																																											

病害虫名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項																						
<p>(葉いもち)</p> <p>移植時</p> <p>6月20日前後～6月末まで</p> <p>発生初期と蔓延期間中</p>	<p>8 側条施用</p> <p>(1) 次のいずれかを側条施薬機で苗の移植と同時に施用する。</p> <p>トルプロカルブ混合箱粒剤 (F:16.3, I:#) プロベナゾール混合箱粒剤 (F:P02, I:#) イソチアニル混合箱粒剤 (F:P03, I:#) デジタルメガフレア箱粒剤 (F:16.1, I:4A) ジクロベンチアゾクス箱粒剤 (F:P08, I:#)</p> <p>(2) 次のいずれかを同重量の水に混ぜてから、ペー スト肥料に均一になるように混和し、側条施肥田 植機で苗の移植と同時に施用する。</p> <p>側条パダンオリゼメート顆粒水和剤 (F:U19, P02, I:14) 側条オリゼメートリディア顆粒水和剤 (F:P02, I:4F) オリゼメート顆粒水和剤 (F:P02) ツインターボ顆粒水和剤 (F:P03, I:4A)</p> <p>9 水面施用</p> <p>次のいずれかを湛水のまま散布する。 オリゼメート粒剤 (F:P02) オリブライト250G (F:11) ブイゲット粒剤 (F:P03)</p> <p>10 茎葉散布</p> <p>感染に好適な日が出現した7～10日後頃から早期発 見に努め、発生を認めたら直ちに次の薬剤のいずれか を散布する。</p> <p>カスミン液剤 (F:24) ラブサイドフロアブル (F:16.1) ブラシフロアブル (F:U14, 16.1) ノンプラスフロアブル (F:U14, 16.1) ビームゾル (F:16.1) ダブルカットフロアブル (F:24, 16.1) フジワン乳剤 (F:6) トップジンMゾル (F:1) トライフロアブル (F:U16) ブラシン粉剤D L (F:U14, 16.1) ノンプラス粉剤D L (F:U14, 16.1) ビーム粉剤D L (F:16.1) トライ混合粉剤 (F:U16, I:#) アイーナ5フロアブル (F:52)</p> <p>病勢の進展が止まらない場合、5日毎位にRACコー ドの異なる茎葉散布剤により薬剤散布を行う。</p>	<p>○ 近年の葉いもち初発生確認状況（県内最早日）</p> <table border="1" data-bbox="890 219 1414 271"> <thead> <tr> <th>年次</th> <th>R7</th> <th>R6</th> <th>R5</th> <th>R4</th> <th>R3</th> <th>R2</th> <th>R1</th> <th>H30</th> <th>H29</th> <th>H28</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>初発日</td> <td>7/15</td> <td>7/12</td> <td>6/30</td> <td>7/14</td> <td>7/13</td> <td>7/8</td> <td>7/23</td> <td>7/13</td> <td>7/12</td> <td>7/20</td> </tr> </tbody> </table> <p>○ 同時防除はP水稲8～10参照。 ○ 混合剤のIRACコードは、混合されている殺虫剤成分 により異なるため#で表記している。</p> <p>○ イソチアニル混合箱粒剤のうち、ツインターボ箱粒 剤08、スタウトダントツ箱粒剤08、ルーチンパンチ 箱粒剤は、側条施薬機の種類により詰まりが生じる リスクがあるので注意する。</p> <p>○ 水面施用剤（パック剤含む）は、止水期間を7日間 とし、落水・かけ流しをしない。その間の入水は水 尻を止めたままで行う。</p> <p>○ オリブライト剤は処理後、葉に微細な褐色斑点を生 じる場合がある。また、中干し後の処理になるとき は、入水一日以上経過してから、湛水状態で処理す る。</p> <p>○ トリシクラゾール剤（ビーム剤、ノンプラス剤、ダブ ルカット剤）は、野菜類の幼苗、なし（二十世紀、幸 水、新水など）及びたばこに飛散すると薬害を生じる おそれがあるので注意する。</p> <p>○ トライ混合粉剤は、P水稲4を参照。</p> <p>○ 耐性菌対策</p> <p>Q o I 剤耐性菌が東北地域でも確認されている。 本県における耐性菌の発生を未然に防ぐため、以下 の対策を地域一体となって実施すること。</p> <p>(1) 耐性菌の発生リスクを回避するため、同一系 統剤の連続での使用を避ける。</p> <p>(2) 以下の薬剤は育苗期から本田期を通じて年1 回以内の使用にとどめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Q o I 剤：オリブライト剤、アミスター剤は同 一系統剤とみなす。 <p>① 上記の剤は1年ごとに作用機構の異なる薬剤と ローテーションで使用する。</p> <p>② これらの成分を含む本田散布剤は、多発時の使 用を避ける。</p> <p>(3) 種子流通に伴い耐性菌が広範囲に伝播するこ とがあるため、採種ほおよびその周辺ではこれ らの成分を含む薬剤は使用しない。</p> <p>(4) 自家採種は耐性菌発達の原因となるので、種 子更新、塩水選及び種子消毒を行う。購入種子 （飼料用稲を含む）でも必ず種子消毒を行う。</p> <p>(5) 適正な肥培管理を厳守するとともに、早期発 見と早期防除に努める。薬剤は使用方法に記載 された使用量・希釈倍数を厳守する。</p> <p>(6) Q o I 剤を使用した水田において、いもち病 （葉いもち、穂いもち）が多発生した場合には、罹 病葉（穂）を採取し、病害虫防除所または 関係指導機関に連絡するとともに、他系統薬 剤で追加防除を行う。</p> <p>○ いもち病抵抗性「中」以下の品種</p> <p>(1) 葉いもちの防除は、次のa)～c)のいずれか により予防散布を行う。</p> <p>a) 箱施用剤、b) 側条施用剤、c) 水面施用剤</p> <p>(2) 予防散布を行ったほ場でも、葉いもちの発生 が見られた場合は、5日毎に成分の異なる茎葉 散布剤により追加防除を行い、穂いもちの伝染 源となる上位葉での発病を抑えるよう努める。</p> <p>(3) 穂いもちの防除は防除適期を失しないよう、 出穂直前と穂揃期の2回散布を行う。葉いもち の発生が見られた場合は、上記の他に穂揃期5 ～7日後の散布も行う。</p>	年次	R7	R6	R5	R4	R3	R2	R1	H30	H29	H28	初発日	7/15	7/12	6/30	7/14	7/13	7/8	7/23	7/13	7/12	7/20
年次	R7	R6	R5	R4	R3	R2	R1	H30	H29	H28														
初発日	7/15	7/12	6/30	7/14	7/13	7/8	7/23	7/13	7/12	7/20														

病害虫名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項
<p>(穂いもち)</p> <p>出穂25～15日前 出穂15～10日前 出穂15～5日前</p> <p>出穂直前 ～穂揃期</p> <p>穂揃5～7日後</p>	<p>[薬剤による防除法]</p> <p>1 水面施用 次のいずれかを湛水のまま散布する。 フジワン1キロ粒剤(F:6) トルプロカルブ粒剤*(F:16.3) コラトップ粒剤5(F:16.1) コラトップジャンボP(F:16.1)</p> <p>2 茎葉散布 (1) 出穂直前と穂揃期の2回、葉いもちの項に準じた茎葉散布剤を散布する。 (2) 抵抗性の弱い品種で葉いもちが見られる場合や、葉いもちの発生が多いなど穂いもちの多発生が予想される場合には、穂揃5～7日後にも薬剤散布を行う。</p>	<p>○ 穂いもち対策</p> <p>(1) 穂いもちに対しては、防除適期を失しないように注意する。 (2) 出穂直前とは走り穂が見えた時期、穂揃期とは80%の穂が出穂した時期をいう。 (3) 出穂直前散布と穂揃期散布の間隔は7日程度とする。 (4) 出穂が長引いた場合、穂揃期に達しなくても出穂直前散布7日目頃に薬剤を散布する。</p> <p>* [トルプロカルブ粒剤(3%)] サンプラス粒剤、ゴウケツ粒剤</p> <p>○ コラトップ剤は、穂いもちの多発が予想される場合には、出穂直前と穂揃期の茎葉散布も行う。 ○ 水面施用剤(パック剤含む)は、止水期間を7日間とし、落水・かけ流しをしない。その間の入水は水尻を止めたままで行う。</p>
<p>紋枯病</p> <p>田植前</p> <p>は種時(覆土前)～移植当日</p> <p>移植3日前</p> <p>移植3日前～移植当日</p> <p>移植10日前～移植当日</p> <p>移植時</p> <p>出穂20～10日前</p> <p>出穂30～5日前</p> <p>出穂直前</p> <p>穂揃期</p>	<p>[耕種の防除法]</p> <p>1 窒素質肥料の過用を避ける。</p> <p>[薬剤による防除法]</p> <p>1 次のいずれかを苗の上から均一に散布する。 ブーンレパード箱粒剤(F:P08,7,I:28) ブーンリガードパディート箱粒剤(F:P08,7,I:28)</p> <p>箱大臣(F:P03,7,I:4A)</p> <p>ペンフルフェン混合箱粒剤(F:,7,I:#)</p> <p>チフルザミド混合箱粒剤(F:7,I:#)</p> <p>2 ミネクトフォルスターSC(F:P03,7,I:28)を育苗箱の(苗の)上から均一にかん注する。</p> <p>3 側条施用 次のいずれかを側条施薬機で苗の移植と同時に施用する。 フラメトビル混合箱粒剤(F:P03,7,I:#) ブーンレパード箱粒剤(F:P08,7,I:28)</p> <p>4 水面施用 次のいずれかを湛水のまま散布する。 モンガリット1キロ粒剤(F:3) モンガリット粒剤(F:3) リンバー粒剤(F:7)</p> <p>5 茎葉散布 出穂直前に1回、次のいずれかを散布する。 バリダシン液剤5(F:U18) バシタック水和剤75(F:7) モンセレンフロアブル(F:20) モンカットフロアブル(F:7) バリダシン粉剤DL(F:U18) モンセレン粉剤DL(F:20) モンカットファイン粉剤20DL(F:7)</p> <p>6 多発生が予想される場合や例年発生の多い水田では、出穂直前の散布のほか、穂揃期にも散布する。</p>	<p>○ 伝染源は前年の菌核である。よって、前年に発生がない場合は防除は不要である。 ○ 深層追肥の場合は、出穂後被害が大きくなりやすいので、出穂直前と穂揃期の2回散布が必要である。 ○ 混合剤のIRACコードは、混合されている殺虫剤成分により異なるため#で表記している。 ○ 箱大臣はP水稻8～10参照。 ○ ペンフルフェン(エバーゴル、ルーチンエキスパート、C s.オリゼリディアEV)混合箱粒剤はP水稻21～22参照。 ○ チフルザミド混合箱粒剤のうち、イミダクロプリドを含む剤の使用時期は移植2日前～移植当日に限られるため注意する。チフルザミド混合箱粒剤(D r.オリゼフェルテラグラータム粒剤、ルーチンアドスピノGT箱粒剤、シャリオ箱粒剤)はP水稻8参照。 ○ 水面施用剤は、止水期間を7日間とし、落水・かけ流しをしない。その間の入水は水尻を止めたままで行う。 ○ 多発が予想される場合は、育苗箱施用剤、水面施用剤を処理した場合でも、茎葉散布剤により追加防除を行う。 ○ バリダシン剤、バシタック剤、モンカット剤は疑似紋枯病(赤色菌核病、褐色菌核病)も同時防除できる。</p>
<p>小粒菌核病</p> <p>田植前</p> <p>田植後 収穫期</p> <p>分けつ期</p>	<p>[耕種の防除法]</p> <p>1 窒素質肥料の過用を避け、加里肥料及び珪カルを多く施す。 2 代かき直後、畦畔際にゴミとともに吹き寄せられた菌核をすくい取って適切に処分する。 3 なるべく浅水又は間断かんがいをする。 4 発生田では低刈りをする。</p> <p>[薬剤による防除法]</p> <p>1 出穂30～10日前にフジワン粒剤(F:6)を水面施用する。</p>	<p>○ 小粒菌核病は、小球菌核病と小黒菌核病の総称である。 ○ 水面施用剤は、止水期間を7日間とし、落水・かけ流しをしない。その間の入水は水尻を止めたままで行う。</p>

病害虫名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項
稲こうじ病 田植前～本田期 移植3日前～移植当日 出穂20～10日前	[耕種的防除法] 1 窒素質肥料の過用を避ける。 [薬剤による防除法] 次のいずれかの方法で防除する。 1 シメコナゾール混合箱粒剤 (F:3, I:#)を育苗箱の(苗の)上から均一に散布する。 2 次のいずれかを散布する。 ドイツボルドーA (F:M01) Zボルドー粉剤DL (F:M01) トライフロアブル (F:U16) アイーナ5フロアブル (F:52) 3 モンガリット1キロ粒剤 (F:3)又はモンガリット粒剤 (F:3)を湛水のまま散布(施用)する。	○ 穂ばらみ期の低温、日照不足、多雨で発生が多くなるので、このような気象条件で前年発生の見られた水田では必ず防除する。 ○ 混合剤のIRACコードは、混合されている殺虫剤成分により異なるため#で表記している。 ○ シメコナゾール混合箱粒剤(トリプルキック箱粒剤)はP水稻9参照。 ○ 水面施用剤は、止水期間を7日間とし、落水・かけ流しをしない。その間の入水は水尻を止めたままで行う。
白葉枯病 田植前～本田期 本田期 7月上旬	[耕種的防除法] 1 窒素質肥料の過用を避ける。 2 常習発生地では、畦畔、水路のサヤヌカグサなど伝染源となる雑草を早目に刈り取り、適切に処分する。 3 発生田では伝染を避けるため、なるべく水田に入らない。 [薬剤による防除法] 1 常習発生地では、7月上旬までにオリゼメート粒剤 (F:P02)を水面施用する。	○ 水面施用剤は、止水期間を7日間とし、落水・かけ流しをしない。その間の入水は水尻を止めたままで行う。
ごま葉枯病(穂枯れ) 田植前～本田期 浸種前 6月末まで 出穂直前と穂揃期	[耕種的防除法] 1 多発田からは採種しない。 2 塩水選を行う。 3 深耕、堆肥の増施、客土などにより地力の増進を図る。 4 硫酸根肥料の施用を避け、生育後期に肥料切れしないよう合理的施肥を行う。 5 珪酸肥料を施用する。 [薬剤による防除法] 1 種子消毒を行う。 2 水面施用 次のいずれかを湛水のまま散布する。 オリブライト250G (F:11) 3 茎葉散布 出穂直前と穂揃期の2回、次のいずれかを散布する。 ブラシフロアブル (F:U14, 16.1) ノンプラスフロアブル (F:U14, 16.1) ブラシ粉剤DL (F:U14, 16.1) ノンプラス粉剤DL (F:U14, 16.1)	○ 同時防除はP水稻17参照。 ○ 水面施用剤は、止水期間を7日間とし、落水・かけ流しをしない。その間の入水は水尻を止めたままで行う。 ○ オリブライト剤は処理後、葉に微細な褐色斑点を生じる場合がある。また、中干し後の処理になるときは、入水1日以上経過してから、湛水状態で処理する。 ○ トリシクラゾールを含む薬剤(ノンプラス剤)は、野菜類の幼苗、なし(二十世紀、幸水、新水など)及びたばこに飛散すると薬害を生じるおそれがあるので注意する。
褐色葉枯病(穂枯れ)	[耕種的防除法] 1 多肥栽培を避け、適正な肥培管理に努める。	○ 夏期の冷涼、多雨で発生が多くなる。
紅変米 出穂期 登熟期 収穫後	[耕種的防除法] 1 畦畔雑草は刈り取り後速やかに場外に搬出し、処分する。 2 適期刈り取りに努める。 3 刈り取り後は速やかに稲を乾燥する。特に、地干しは発生を助長させるので乾燥には注意する。	○ 本病はエビコッカム菌が玄米に寄生し、玄米表面に紅色斑点を形成する。 ○ 枯死した雑草上には多数の分生胞子が形成され、伝染源となる。 ○ 本病は開花期の低温多湿で発生が多い。また、黄熟期以降の多雨で発生が多くなる。

病害虫名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項
イネドロオウムシ	[薬剤による防除法] 次のいずれかの方法で防除する。	
は種前	1 次のいずれかを育苗箱の床土に所定量を均一に混和する。 バダン粒剤 4 (I:14, F:U19) プリンス粒剤 (I:2B) プリンススピノ粒剤 6 (I:2B, 5) ワンリード箱粒剤08 (I:4A) フェルテラ箱粒剤 (I:28) ブーンパディート箱粒剤 (I:28, F:P08)	○ 混合剤のFRACコードは、混合されている殺菌剤成分により異なるため#で表記している。 ○ バダン粒剤 4 の床土混和の場合、覆土には混和しない。また、使用する床土によっては被害を生ずることがあるので、使用上の留意事項を厳守する。 ○ 床土に「苗箱まかせ」の肥料を用いた場合は、バダン剤の床土混和処理では被害を生じることがあるので使用しない。
は種時(覆土前)	2 次のいずれかを育苗箱の上から均一に散布する。 プリンス粒剤 (I:2B) プリンススピノ粒剤 6 (I:2B, 5) ワンリード箱粒剤08 (I:4A) アドマイヤーC R 箱粒剤 (I:4A) フェルテラ箱粒剤 (I:28) ファーストオリゼリディア粒剤 (I:4F, F:P02)	○ プリンス粒剤のは種前(床土混和)及びは種時(覆土前)散布の場合、低温で生育抑制を生ずるおそれがあるので、温度管理に注意する。
緑化期	3 次のいずれかを苗の上から均一に散布する。 プリンス粒剤 (I:2B) プリンススピノ粒剤 6 (I:2B, 5) ジノテフラン箱粒剤 (2%) [*] (I:4A) ワンリード箱粒剤08 (I:4A) アドマイヤーC R 箱粒剤 (I:4A) フェルテラ箱粒剤 (I:28) C s .オリゼパディート箱粒剤 (I:28, F:P02) G Pオリゼリディア箱粒剤 (I:4F, F:P02)	○ 粒剤を育苗箱に施用すると移植後巻葉や葉先枯れが発生したり、一時的に初期生育を抑制することがあるので、使用上の留意事項を厳守する。 ○ 粒剤スプレーヤーを使用すると、均一に散粒できる。 ○ カーバメイト剤、フェニルピラゾール剤の抵抗性発現あるいは感受性低下が認められる地域があることから、可能な限り1年もしくは2年毎に作用機構(RACコード)の異なる箱施用剤をローテーションで使用する。
緑化期～移植当日		
移植3日前 ～移植当日	ガゼット粒剤 (I:1A) オンコル粒剤 5 (I:1A) グランドオンコル粒剤 (I:1A) ギャング粒剤 (I:1A, 2B) デジタルコラトップアクタラ箱粒剤 (I:4A, F:16.1) ダントツ箱粒剤 (I:4A) デジタルメガフレア箱粒剤 (I:4A, F:16.1) パディート箱粒剤 (I:28) フルピリミン混合箱粒剤 (I:4F, F:#) ^{****} ジノテフラン箱粒剤 (12%) ^{**} (I:4A) リディア箱粒剤 (I:4F) リディアE V 箱粒剤 (I:4F, F:7) バリアード箱粒剤 (I:4A)	○ デジタルコラトップアクタラ箱粒剤、デジタルメガフレア箱粒剤の対象病害虫はP水稲8参照。 ○ ジノテフラン箱粒剤の緑化期処理は、効果の劣る事例がある。 * [ジノテフラン箱粒剤 (2%)] スタークル箱粒剤、アルバリン箱粒剤 ** [ジノテフラン箱粒剤 (12%)] スターダム箱粒剤、アトラクトン箱粒剤 *** [ジノテフラン粒剤] スタークル粒剤、アルバリン粒剤 **** [フルピリミン混合箱粒剤]
移植2日前 ～移植当日		
移植当日		
は種時(覆土前)	4 バダン粒剤 4 (I:14, F:U19) 次のいずれかを苗の上から均一に散布(かん注)する。 ヘッド顆粒水和剤 (I:28, F:21) バス顆粒水和剤 (I:28) ブーンパディート箱粒剤 (I:28, F:P08) ブーンアレス箱粒剤 (I:-, F:P08) ブーンレパード箱粒剤 (I:28, F:P08, 7) フェルテラ箱粒剤 [*] (I:28) ブーンリガードパディート箱粒剤 (I:28, F:P08, 7)	○ 防除剤を替える場合には、RACコードの同じ剤並びにカーバメイト剤と有機リン剤の間では交差抵抗性を示すおそれがあるので、同じRACコードの剤が連用とにならないよう注意する。
は種時(覆土前) ～移植当日		
移植10日前 ～移植当日	ミネクトブラスター顆粒水和剤 (F:P03, I:28) ミネクトフォルスターS C (F:P03, 7, I:28)	
移植3日前 ～移植当日	ダントツ水溶剤 (I:4A) ガードナーフロアブル (I:5, 4A) ミネクトスター顆粒水和剤 (I:28, 9B) アドマイヤー顆粒水和剤 (I:4A)	
移植2日前 ～移植当日		
移植時	5 次のいずれかをベース肥料に混和し、側条用施肥田植機で苗の移植と同時に施用する。 バダンS G 水溶剤 (I:14) ツインターボ顆粒水和剤 (F:P03, I:4A) 6 次のいずれかを側条施肥機で苗の移植と同時に施用する。 シアントラニプロール混合箱粒剤 (I:28, F:#) プリンス粒剤 (I:2B) クロラントラニプロール混合箱粒剤 (I:28, F:#) ジノテフラン混合箱粒剤 (I:4A, F:#) フルピリミン混合箱粒剤 (I:4F, F:#) クロチアニジン混合箱粒剤 (I:4A, F:#)	※【高密度は種苗で使用する際の注意事項】 ① 10a 当りの使用育苗箱数を確認の上、育苗箱1枚当りの処理量を調整する。 ② 箱当りの処理量を慣行量のまま疎植した場合、10a 当りの処理量が減ることから、効果が不安定となる恐れがある。また、耐性菌、抵抗性害虫の発生を助長する恐れがあることから、必ずローテーションで使用する。 ○ 同時防除はP水稲8～10参照。 ○ ツインターボ顆粒水和剤 (F:P03, I:4A) については、あらかじめ同重量の水に混ぜてから、ベース肥料に均一になるように混和する。 ○ シアントラニプロール混合箱粒剤及びクロチアニジン混合箱粒剤のうち、ツインターボ箱粒剤08、スタウトダントツ箱粒剤08、ルーチンバンチ箱粒剤は、側条施肥機の種類により詰まりが生じるおそれがあるので注意する。 ○ フルピリミン混合箱粒剤のうち、リディアE V 箱粒剤、D r .オリゼリディア箱粒剤の側条施用に関しては、イネドロオウムシへの効果を確認していないため注意する。
本田発生初期	7 次のいずれかを散布する。 (1) 茎葉散布 キラップフロアブル (I:2B) エミリアフロアブル (I:4F) トレボン粉剤 D L (I:3A) ダントツ粉剤 D L (I:4A) キラップ粉剤 D L (I:2B) (2) 水面施用 湛水のまま、次のいずれかを散布する。 トレボン粒剤 (I:3A) ジノテフラン粒剤 ^{***} (I:4A) なげこみトレボン (I:3A)	○ ダントツ箱粒剤、同水溶剤、同粉剤 D L、キラップフロアブル、同粉剤 D L、デジタルコラトップアクタラ箱粒剤、デジタルメガフレア箱粒剤及びジノテフラン箱粒剤はミツバチに対して特に毒性が強いため注意する。詳細はP22～23参照。 ○ なげこみトレボンの使用時期は移植20日後以降(但し、5葉期以降)となっているので注意する。 ○ 水面施用剤は、止水期間を7日間とし、落水・かけ流しをしない。その間の入水は水尻を止めたままで行う。 ○ 同時防除はP水稲8～10参照。

病害虫名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項									
<p>イネミズゾウムシ</p> <p>は種前</p> <p>は種時(覆土前)緑化期 ～移植当日</p> <p>移植3日前 ～移植当日</p> <p>移植2日前 ～移植当日</p> <p>移植当日</p> <p>は種時(覆土前)</p> <p>は種時(覆土前) ～移植当日</p> <p>移植10日前 ～移植当日</p> <p>移植3日前 ～移植当日</p> <p>移植2日前 ～移植当日</p> <p>移植時</p> <p>5月第6半旬 ～6月上旬</p>	<p>[薬剤による防除法]</p> <p>1 本虫の防除の基本は、移植後に発生程度に対応して行うことである。しかし、例年発生が多い水田や他害虫が発生して同時防除を必要とする場合には、薬剤の育苗箱施用を重点とし、これに適宜粒剤の水面施用を併用する。</p> <p>2 予防的に防除する方法又は他害虫との同時防除方法</p> <p>(1) 次のいずれかを育苗箱の床土に所定量を均一に混和する。 リディアNT箱粒剤(I:4F) その他の剤はイネドロオウムシの項に準ずる。</p> <p>(2) 次のいずれかを育苗箱の(苗の)上から均一に散布する。 ファーストオリゼリディア粒剤(I:4F,F:P02) プリンス粒剤(I:2B) プリンススピノ粒剤6(I:2B,5) ジノテフラン箱粒剤(2%)* (I:4A) ワンリード箱粒剤08(I:4A) アドマイヤーCR箱粒剤(I:4A) フェルテラ箱粒剤(I:28) Cs.オリゼパディート箱粒剤(I:28,F:P02) GPオリゼリディア箱粒剤(F:P02,I:4F) ガゼット粒剤(I:1A) オンコル粒剤5(I:1A) グランドオンコル粒剤(I:1A) ギャング粒剤(I:1A,2B) デジタルコラトップアクタラ箱粒剤(I:4A,F:16.1) ダントツ箱粒剤(I:4A) デジタルメガフレア箱粒剤(I:4A,F:16.1) パディート箱粒剤(I:28) フルピリミン混合箱粒剤(I:4F,F:#) ジノテフラン箱粒剤(12%)** (I:4A) リディア箱粒剤(I:4F) リディアNT箱粒剤(I:4F) リディアEV箱粒剤(I:4F,F:7) バリアード箱粒剤(I:4A) パダン粒剤4(I:14,F:U19)</p> <p>(3) 次のいずれかを育苗箱の(苗の)上から均一に散布(かん注)する。 ヘッド顆粒水和剤(I:28,F:21) バズ顆粒水和剤(I:28) ブーンパディート箱粒剤(I:28,F:P08) ブーンレバード箱粒剤(I:28,F:P08,7) ブーンアレス箱粒剤(I:37,F:P08) フェルテラ箱粒剤(I:28) ブーンリガードパディート箱粒剤(I:28,F:P08,7) ミネクトプラスター顆粒水和剤(F:P03,I:28) ミネクトフォルスターSC(F:P03,7,I:28) ダントツ水溶剤(I:4A) ガードナーフロアブル(I:5,4A) ミネクトスター顆粒水和剤(I:28,9B) アドマイヤー顆粒水和剤(I:4A)</p> <p>(4) 次のいずれかをベースト肥料に混和し、側条用施肥田植機で苗の移植と同時に施用する。 ツインターボ顆粒水和剤(F:P03,I:4A) パダンSG水溶剤(I:14,F:U19) 側条オリゼメートリディア顆粒水和剤(I:4F,F:P02)</p> <p>(5) 次のいずれかを側条施肥機で苗の移植と同時に施用する。 プリンス粒剤(I:2B) シアントラニリプロール混合箱粒剤(I:28,F:#) テトラニリプロール混合箱粒剤(I:28,F:#) クロラントラニリプロール混合箱粒剤(I:28,F:#) クロチアニジン混合箱粒剤(I:4A,F:#) フルピリミン混合箱粒剤(I:4F,F:#) ジノテフラン混合箱粒剤(I:4A,F:#)</p> <p>3 移植時までの防除をしないで、発生程度に応じて防除する方法</p> <p>(1) 移植後の5月第6半旬又は6月第1～2半旬に一筆ほ場2か所について50株以上を調査し、食害株率又は食害度が下記の基準を超えた場合にのみ、次のいずれかを湛水状態で散布する。 トレボン粒剤(I:3A) なげこみトレボン(I:3A)</p> <p>防除要否判断基準</p> <table border="1" data-bbox="459 1939 715 2011"> <thead> <tr> <th>調査時期</th> <th>食害株率</th> <th>食害度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5月第6半旬</td> <td>62%</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>6月第1～2半旬</td> <td>82%</td> <td>25</td> </tr> </tbody> </table>	調査時期	食害株率	食害度	5月第6半旬	62%	18	6月第1～2半旬	82%	25	<p>○ 粒剤を育苗箱に施用し移植すると、巻葉や葉先枯等が発生したり、一時的に初期生育が抑制されることがあるので、使用上の留意事項を厳守する。</p> <p>○ 同時防除は水稲P8～10参照。</p> <p>○ パダン粒剤4の床土混和の場合、覆土には混和しない。また、使用する床土によっては葉害を生ずることがあるので使用上の留意事項を厳守する。</p> <p>○ 混合剤のFRACコードは、混合されている殺菌剤成分により異なるため#で表記している。</p> <p>○ プリンス粒剤のは種前(床土混和)及びは種時(覆土前)処理の場合、低温下で生育抑制を生じるおそれがあるので、温度管理に注意する。</p> <p>○ ジノテフラン箱粒剤の緑化期処理は、効果の劣る事例がある。</p> <p>* [ジノテフラン箱粒剤(2%)] スタークル箱粒剤、アルパリン箱粒剤</p> <p>** [ジノテフラン箱粒剤(12%)] スターダム箱粒剤、アトラクトン箱粒剤</p> <p>○ デジタルコラトップアクタラ箱粒剤、デジタルメガフレア箱粒剤の対象病害虫はP水稲8参照。</p> <p>○ 床土に「苗箱まかせ」の肥料を用いた場合は、パダンの床土混和処理では葉害を生じることがあるので使用しない。</p> <p>○ ダントツ箱粒剤、同水溶剤、デジタルコラトップアクタラ箱粒剤、デジタルメガフレア箱粒剤及びジノテフラン箱粒剤はミツバチに対して特に毒性が強いので注意する。詳細はP22～23参照。</p> <p>※【高密度は種苗で使用する場合の注意事項】</p> <p>① 10a当りの使用育苗箱数を確認の上、育苗箱1枚当りの処理薬量を調整する。</p> <p>② 箱当りの処理薬量を慣行量のまま疎植した場合、10a当りの処理薬量が減ることから、効果が不安定となる恐れがある。また、耐性菌、抵抗性害虫の発生を助長する恐れがあることから、必ずローテーションで使用使用する。</p> <p>○ ツインターボ顆粒水和剤(F:P03,I:4A)については、あらかじめ同重量の水に混ぜてから、ベースト肥料に均一になるように混和する。</p> <p>○ シアントラニリプロール混合箱粒剤及びクロチアニジン混合箱粒剤のうち、ツインターボ箱粒剤08、スタウトダントツ箱粒剤08、ルーチンパンチ箱粒剤は、側条施肥機の種類により詰まりが生じるリスクがあるので注意する。</p> <p>○ なげこみトレボンの使用時期は移植20日後以降(但し、5葉期以降)となっているので注意する。</p> <p>○ 水面施用剤は、止水期間を7日間とし、落水・かけ流しをしない。その間の入水は水尻を止めたままで行う。</p> <p>[食害程度別基準] 甚(A): ほぼ全葉に激しい食害痕が認められる。 多(B): ほぼ全葉に中程度の食害痕が認められる。 少(D): 1/2以下の葉に軽い食害痕が認められる。 無(E): 食害痕が認められない。</p> <p>食害度 = $\frac{A(Aの株数) \times 4 + B \times 3 + C \times 2 + D}{調査株数 \times 4} \times 100$</p>
調査時期	食害株率	食害度									
5月第6半旬	62%	18									
6月第1～2半旬	82%	25									

病害虫名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項
イネハモグリバエ は種前 移植当日 本田発生初期	[薬剤による防除法] 次のいずれかの方法で防除する。 1 バダン粒剤 4 (I:14)を育苗箱の床土に均一に混和する。 2 バダン粒剤 4 (I:14)を苗の上から均一に散布する。 3 次のいずれかを茎葉散布する。 スミチオン乳剤 (I:1B) エルサン乳剤 (I:1B) エルサン粉剤 2 (I:1B)	○ 同時防除はP 水稻8～10参照。 ○ 本田散布の場合、スミチオン乳剤の濃度は、発生初期は2,000倍、被害最盛期は1,500倍とする。
イネヒメハモグリバエ (イネギワバエ) は種時(覆土前) は種時(覆土前)～移植当日 移植当日 移植3日前～移植当日 移植当日 本田発生初期	[薬剤による防除法] 次のいずれかの方法で防除する。 1 次のいずれかを育苗箱の(苗の)上から均一に散布す ファーストオリゼパディート粒剤(I:28,F:P02) プリンス粒剤 [※] (I:2B) プリンス粒剤(I:2B) ブーンリガードパディート箱粒剤(I:28,F:P08,7) フェルテラ箱粒剤 [※] (I:28) ダントツ箱粒剤(I:4A) リディア箱粒剤(I:4F) リディアNT箱粒剤 [※] (I:4F) GPオリゼリディア箱粒剤(I:4F,F:P02) フェルテラ箱粒剤(I:28) パディート箱粒剤(I:28) ブーンパディート箱粒剤(I:28,F:P08) 2 次のいずれかを茎葉散布する。 スミチオン乳剤(I:1B) エルサン乳剤(I:1B) エルサン粉剤 2 (I:1B)	○ 同時防除はP 水稻8～10参照。 ※【高密度は種苗で使用する場合の注意事項】 ① 10a 当りの使用育苗箱数を確認の上、育苗箱1枚当りの処理薬量を調整する。 ② 箱当りの処理薬量を慣行量のまま疎植した場合、10a 当りの処理薬量が減ることから、効果が不安定となる恐れがある。また、耐性菌、抵抗性害虫の発生を助長する恐れがあることから、必ずローテーションで使用する。 ○ 発生時期が長期にわたる場合は、7～10日毎に2～3回薬剤を散布する。 ○ 乳剤は、畦畔等にも散布する。
イネカラバエ (イネキモグリバエ) 田植前～ 本田期 移植3日前～移植当日 移植当日	[耕種的防除法] 1 窒素質肥料の過用を避ける。 2 スズメノテッポウ、ヌカボなどの雑草を刈り取る。 [薬剤による防除法] 1 次のいずれかを苗の上から均一に散布する。 ジノテフラン箱粒剤(12%)** (I:4A) フルピリミン箱粒剤*** (I:4F,F:#) 2 次のいずれかを茎葉散布する。 スミチオン乳剤(I:1B) エルサン粉剤 2 (I:1B) プリンス粒剤 (I:2B) グランドオンコル粒剤(I:1A)	○ 地帯別産卵最盛期 津軽平野地帯は6月末～7月初め、山間、海岸地帯は7月上旬末、下北地方は7月上旬末～7月中旬初め。 ○ いずれの剤も効果が不安定な事例がある。 ** [ジノテフラン箱粒剤(12%)] スターダム箱粒剤、アトラクトン箱粒剤、ゴウケツバスター箱粒剤 *** [フルピリミン箱粒剤] リディア箱粒剤、リディアNT箱粒剤、GPオリゼリディア箱粒剤
フタオビコヤガ (イネアオムシ) 移植当日 発生初期 第1世代 6月上旬 第2世代 7月上旬 第3世代 8月上旬	[薬剤による防除法] 次のいずれかの方法で防除する。 1 次のいずれかを苗の上から均一に散布する。 フェルテラ箱粒剤(I:28) スピノサド混合箱粒剤(I:5,F:#) ブーンパディート箱粒剤(I:28,F:P08) ブーンリガードパディート箱粒剤(I:28,F:P08,7) 2 次の薬剤を茎葉散布する。 スミチオン乳剤 (I:1B) 第1世代 800 第2、3世代 1400	○ 箱施用剤の同時防除はP 水稻8～9参照。 ○ スピノサド混合箱粒剤(スピノ)はP 水稻8～9参照。 ○ 第1世代、第2世代の発生が極めて少ない場合でも、第3世代の発生が多くなる場合があるので、注意を要する。 ○ 同時防除はP 水稻8～10参照。
ニカメイチュウ (ニカメイガ) 田植前～ 本田期 出穂10日前と出穂始め～ 出穂期 (7月下旬～8月上旬)	[耕種的防除法] 1 窒素質肥料の過用を避ける。 2 マコモ、イタドリなどの雑草を刈り取る。 [薬剤による防除法] 1 次のいずれかを散布する。なお、出穂10日前の被害が株率で4%以下(50株5か所平均)のときは出穂始め～出穂期にかけて1回散布する。 (1) 茎葉散布 スミチオン乳剤(I:1B) バダンSG水溶剤(I:14) スミチオン粉剤 2 DL (I:1B) (2) 水面施用 湛水のまま、バダン粒剤 4 (I:14)を散布する。	○ 家岸、わら乳穂、りんご園付近では発生が早いので、被害株率で7～10%位になったときに第1回目の薬剤散布を行い、その後は一般水田に準じて散布する。 ○ 出穂始めから出穂期にかけての防除は、特にていねいに行う。 ○ なるべくいもち病、紋枯病などとの同時防除を行う。 ○ 同時防除はP 水稻8～10参照。 ○ 水面施用剤は止水期間を7日間とし、落水・かけ流しをしない。その間の入水は水尻を止めたままで行う。
コブノメイガ 発生初期 (8月上旬～中旬)	[薬剤による防除法]	○ 日本沿岸、津軽半島北部及び下北地方では年により多発するので注意する。 ○ 中齢期以降の幼虫には、バダンを含む剤を使用すこのほかの剤は効果が劣る。

病害虫名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項
<p>カメムシ類 6月上旬 ～7月中旬 (出穂1週間前まで)</p> <p>移植3日前 ～移植当日</p> <p>出穂5日前 ～穂揃期</p> <p>穂揃期 ～穂揃14日後</p> <p>穂揃期 ～穂揃14日後</p> <p>穂揃期と 穂揃7～10日後</p>	<p>[耕種的防除法]</p> <p>1 発生地となっている水田周辺の休耕田や畦畔等で、雑草が開花・結実しないように刈取りや耕起を行う。遅くともイネの出穂7日前までに終える。</p> <p>2 ノビエの多発生水田では、斑点米の発生率が高くなるので防除を徹底する。</p> <p>3 ホタルイ・シズイはアカスジカスミカメの発生源となっており、これらが多発生している場合は斑点米率が高くなるので、防除を徹底する。</p> <p>[薬剤による防除法]</p> <p>次のいずれかの方法で防除する。</p> <p>1 デジタルメガフレア箱粒剤 (I:4A, F:16.1) を苗の上から均一に散布する。</p> <p>2 水面施用 湛水のまま次のいずれかを散布する。 ダントツ粒剤 (I:4A)</p> <p>3 ジノテフラン粒剤*(I:4A) ジノテフラン1キロ粒剤**(I:4A) 茎葉散布 (1回散布) 次のいずれかを散布する。 キラップフロアブル (I:2B) ジノテフラン液剤*(I:4A) ジノテフラン顆粒水溶剤**(I:4A) ダントツ水溶剤 (I:4A) ダントツフロアブル (I:4A) エクシードフロアブル (I:4C) キラップ粉剤D L (I:2B) ジノテフラン粉剤*** (I:4A) ダントツH粉剤D L (I:4A) エクシード粉剤D L (I:4C)</p> <p>4 茎葉散布 (2回散布) 次のいずれかの薬剤を、穂揃期とその7～10日後の2回の散布を行う。2回目の散布後、高温・少雨により幼虫・成虫の発生が多い場合には2回目散布7～10日後に3回目の追加散布を行う。</p> <p>エルサン乳剤 (I:1B) スミチオン乳剤 (I:1B) トレボン乳剤 (I:3A) トレボンEW (I:3A) トレボンMC (I:3A) スミチオン粉剤2 D L (I:1B) スミチオン粉剤3 D L (I:1B) トレボン粉剤D L (I:3A) ダントツ粉剤D L (I:4A) スミチオントレボン粉剤D L (I:1B, 3A)</p>	<p>○ カスミカメムシ類はイネ科植物を好み、オオトゲシラホシカメムシはマメ科植物を好む。</p> <p>○ 斑点米発生率は穂揃20～30日頃がもっとも多く、その後減少していくが、無防除等でカメムシ類が多いと、収穫適期にも被害が出る場合がある。</p> <p>○ イネの出穂間近の草刈りは、逆に水田内に追い立てることになるので注意する。やむをえずイネの出穂後に畦畔等の草刈りを行う場合は、草刈場所周辺の水田において、ネオニコチノイド系又はフェニルピラゾール系殺虫剤散布直前から1週間以内を目処に行う。また、合成ピレスロイド系及び有機リン系殺虫剤の場合は、1回目の散布後すみやかに行う。ただし、あらかじめ草刈り予定の場所に殺虫剤を散布した場合は草刈りしても問題ない。</p> <p>○ 斑点米被害は水稻の登熟に伴い減少するので、イネの出穂後、収穫期までの間に草刈りを行う際は、できるだけ収穫直前に行う。</p> <p>○ デジタルメガフレア箱粒剤は水稻P8参照。箱施用剤はカメムシ多発時には効果が劣る場合があるため、できるだけ他の防除手段と組み合わせる。</p> <p>○ 水面施用剤は、茎葉散布剤に比べ効果が不安定であるため、農薬飛散による周辺農作物への影響が懸念される場合に使用する。</p> <p>○ 水面施用剤は、止水期間を7日間とし、落水・かけ流しをしない。その間の入水は水尻を止めたままで行う。</p> <p>* [ジノテフラン粒剤] スタークル粒剤、アルバリン粒剤</p> <p>** [ジノテフラン1キロ粒剤] スタークル1キロH粒剤、スタークルメイト1キロH粒剤</p> <p>○ 天候不順によりイネの出穂期間が長くなると予想される時は、各薬剤とも散布時期を半月程度遅らせる。</p> <p>○ 防除はなるべく広域一斉散布で実施する。</p> <p>○ キラップ剤は穂揃期～穂揃7日後散布、ジノテフラン剤・ダントツ剤は穂揃7～14日後散布、エクシード剤は穂揃7～10日後散布で、より安定した防除効果が得られている。</p> <p>○ 登熟後期のカメムシ類の発生が多い場合は、追加防除が必要である。</p> <p>* [ジノテフラン液剤] スタークル液剤10、スタークルメイト液剤10</p> <p>** [ジノテフラン顆粒水溶剤] スタークル顆粒水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤</p> <p>*** [ジノテフラン粉剤] スタークル粉剤D L、アルバリン粉剤D L</p> <p>○ 出穂直前に「いもち病・紋枯病・殺虫剤」の3種混合剤、穂揃期に「いもち病(又は紋枯病も同時)」という従来の散布体系を逆にして、穂揃期にカメムシ防除剤が加わるようにする。但し、コバネイナゴの防除も重点的に実施する必要がある地域では、従来どおりの散布体系とし、穂揃期散布にカメムシ防除剤を組み入れる。</p> <p>○ 天候不順によりイネの登熟が遅れている場合には、散布時期を遅らせる。</p> <p>○ 休耕田の生息密度を低下させるために、7月第3半旬頃から8月中旬にかけて薬剤防除を行うのも有効である。一年生雑草等が優占している休耕田や畦畔では、左の茎葉散布剤を散布し、ヨシ、オギ、ススキ、セイタカアワダチソウ等の多年生雑草が優占している休耕田では水稻P7に示した薬剤を散布する。</p> <p>○ 同時防除用はP水稻8～10参照。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>ダントツ粒剤、同フロアブル、同水溶剤、同粉剤D L、同H粉剤D L及びジノテフラン粒剤、同1キロ粒剤、同液剤、同顆粒水溶剤、同粉剤、デジタルメガフレア箱粒剤はミツバチに対して特に毒性が強いので注意する。詳細はP22～23参照。</p> </div>

病害虫名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項
<p>セジロウカ</p> <p>移植3日前 ～移植当日</p> <p>発生初期</p> <p>孵化最盛期 (7月下旬～ 8月上旬)</p> <p>穂揃期 ～穂揃14日後 (8月中旬～ 下旬)</p>	<p>[薬剤による防除法]</p> <p>1 次のいずれかを苗の上から均一に散布する。</p> <p>プリンス粒剤 (I:2B) デジタルメガフレア箱粒剤 (I:4A, F:16.1) ただし、多発生時には茎葉散布剤を散布する。</p> <p>2 水面施用 湛水のまま、ダントツ粒剤 (I:4A) を散布する。</p> <p>3 茎葉散布 次のいずれかを散布する。 マラソン乳剤 (I:1B) トレボン乳剤 (I:3A) ジノテフラン液剤* (I:4A) エクシード粉剤D L (I:4C)</p> <p>キラップフロアブル (I:2B) スミチオン粉剤2 D L (I:1B) トレボン粉剤D L (I:3A) ジノテフラン粉剤** (I:4A) ダントツ粉剤D L (I:4A) ダントツH粉剤D L (I:4A)</p>	<p>○ 本虫は7月頃飛来してくるが、年により時期・量とも変動が大きいので、病害虫発生予察情報などに注意する。</p> <p>○ 日本海沿岸・津軽半島北部及び下北地方では発生が多いので、特に注意を要する。</p> <p>○ ヒメトビウンカが混発している場合は、スミチオン剤、マラソン剤ではヒメトビウンカに効果が劣るので、他の薬剤を使用する。</p> <p>○ 水面施用剤は、止水期間を7日間とし、落水・かけ流しをしない。その間の入水は水尻を止めたままで行う。</p> <p>○ 同時防除はP水稻8～10参照。</p> <p>○ ダントツ粉剤D L、同H粉剤D L、同粒剤、ジノテフラン粉剤及びデジタルメガフレア箱粒剤はミツバチに対して特に毒性が強いので注意する。詳細はP22～23参照。</p> <p>* [ジノテフラン液剤] スタークル液剤10、スタークルメイト液剤10</p> <p>** [ジノテフラン粉剤] スタークル粉剤D L、アルバリン粉剤D L</p>
<p>ヒメトビウンカ</p> <p>移植3日前 ～移植当日</p> <p>発生初期</p> <p>穂揃期 ～穂揃14日後</p>	<p>[薬剤による防除法]</p> <p>1 次のいずれかを育苗箱の(苗の)上から均一に散布する。</p> <p>プリンス粒剤 (I:2B) ギャング粒剤 (I:1A, 2B) デジタルメガフレア箱粒剤 (I:4A, F:16.1)</p> <p>ただし、多発生時には茎葉散布剤を散布する。</p> <p>2 茎葉散布 次のいずれかを散布する。 トレボン乳剤 (I:3A) ジノテフラン液剤* (I:4A) キラップフロアブル (I:2B) エミリアフロアブル (I:4F) トレボン粉剤D L (I:3A) ジノテフラン粉剤** (I:4A) ダントツ粉剤D L (I:4A) ダントツH粉剤D L (I:4A) エクシード粉剤D L (I:4C)</p>	<p>○ 同時防除はP水稻8～10参照。</p> <p>○ ダントツ粉剤D L、同H粉剤D L、ジノテフラン粉剤及びデジタルメガフレア箱粒剤はミツバチに対して特に毒性が強いので注意する。詳細はP22～23参照。</p> <p>* [ジノテフラン液剤] スタークル液剤10、スタークルメイト液剤10</p> <p>** [ジノテフラン粉剤] スタークル粉剤D L、アルバリン粉剤D L</p>
<p>アワヨトウ</p> <p>幼虫発生時</p>	<p>[薬剤による防除法]</p> <p>1 次のいずれかを多発生時に茎葉散布する。 スミチオン乳剤 (I:1B) スミチオン粉剤3 D L (I:1B)</p>	<p>○ スミチオン乳剤は製品によって適用が異なるため、農薬登録を確認して使用する。</p>

病害虫名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項
コバネイナゴ	[薬剤による防除法]	
は種前	次のいずれかの方法で防除する。 1 次のいずれかを床土に均一に混和する。 プリンス粒剤 (I:2B) ファーストオリゼリディア粒剤 (I:4F, F:P02)	○ プリンス粒剤のは種前(床土混和)処理の場合、低温で生育抑制を生ずるおそれがあるので温度管理に注意する。
は種時(覆土前)	2 次のいずれかを育苗箱の上から均一に散布する。 プリンス粒剤 (I:2B) プリンススピノ粒剤 6 (I:2B, 5) スタウトアレス箱粒剤 (I:37, F:P03) アレス箱粒剤 (I:37) ファーストオリゼリディア粒剤 (I:4F, F:P02)	○ 同時防除はP水稻8～10参照。 ○ 混合剤のFRACコードはP水稻8～10参照。
は種時(覆土前)～移植当日	プリンス粒剤 [*] (I:2B) リディアNT箱粒剤 (I:4F)	※【高密度は種苗で使用する場合の注意事項】 ① 10a当りの使用育苗箱数を確認の上、育苗箱1枚当りの処理薬量を調整する。 ② 箱当りの処理薬量を慣行量のまま疎植した場合、10a当りの処理薬量が減ることから、効果が不安定となる恐れがある。また、耐性菌、抵抗性害虫の発生を助長する恐れがあることから、必ずローテーションで使用する。
緑化期～移植当日	3 ブイゲットバディート粒剤 (I:28, F:P08) C s. オリゼバディート箱粒剤 (I:28, F:P02)	
移植3日前～移植当日	4 次のいずれかを育苗箱(苗)の上から均一に散布(かん注)する。 プリンス粒剤 (I:2B) プリンススピノ粒剤 6 (I:2B, 5) ギャング粒剤 (I:1A, 2B) フェルテラスタークル箱粒剤CU (I:4A, 28) ミネクトスター顆粒水和剤 (I:28, 9B) フルピリミン箱粒剤 [*] (I:4F) レシードプラス箱粒剤 (I:28, F:P08)	* [フルピリミン箱粒剤] リディア箱粒剤、リディアNT箱粒剤、リディアEV箱粒剤、GPオリゼリディア箱粒剤、Cs. オリゼリディア箱粒剤、Cs. オリゼリディアEV箱粒剤 ^{**}
移植当日	5 スタウトアレス箱粒剤 (I:37, F:P03) ブーンバディート箱粒剤 (I:28, F:P08) ブーンリガードバディート箱粒剤 (I:28, F:P08, 7)	
孵化終期 7月第3半旬～第5半旬	6 孵化終期に畦畔付近に幼虫が多く見られる場合は、次のいずれかを畦畔(農道・水路の雑草を含む)及び水田の畦畔際2～3mに散布する。散布量は10a相当量とする。 トレボンEW (I:3A) トレボン乳剤 (I:3A) トレボンMC (I:3A) スミチオントレボン乳剤 (I:1B, 3A) ダントツフロアブル (I:4A) キラップフロアブル (I:2B) トレボン粉剤DL (I:3A) スミチオントレボン粉剤DL (I:1B, 3A) ジノテフラン粉剤 ^{**} (I:4A) ダントツ粉剤DL (I:4A) ダントツH粉剤DL (I:4A)	○ 本虫は移動・分散が激しいので、広域一斉防除に努める。 ○ 孵化終期の防除時に水田中央部への侵入が多い場合は、全面散布に切替える。 ○ 茎葉散布剤のバッサ剤、トレボン剤及びこれらの成分のみを含む薬剤で本虫に対する効果が低下している地域があるので注意し、前年まで使用して効果がみられないときは他の薬剤を使用する。 ○ ダントツフロアブル、同粉剤DL、同H粉剤DL及びジノテフラン粉剤はミツバチに対して特に毒性が強いので注意する。詳細はP22～23参照。
出穂期前後	7 キラップ粉剤DL (I:2B) 8 ほ場全体に孵化終期の項に準じた茎葉散布剤又は茎葉散布混合剤を散布する。	** [ジノテフラン粉剤] スタークル粉剤DL、アルバリン粉剤DL

4. 航空防除(有人ヘリコプター・無人航空機)

(1) 掲載農薬一覧

農薬名	有人 ヘリコプター	無人 航空機	F R A C コ ド	I R A C コ ド	有効成分	適用病害虫名										
						い も ち 病	紋 枯 病	稲 こ う じ 病	ご ま 葉 枯 病	ニ カ メ イ チ ユ ウ	フ タ オ ビ コ ヤ ガ	セ ジ ロ ウ ン カ	ヒ メ ト ビ ウ ン カ	カ メ ム シ 類	コ バ ネ イ ナ ゴ	
オリゼメート粒剤20	○	○	P02		プロバナゾール	○										
オリブライト250G		○	11		メトミノストロビン	○			○							
カスミン液剤	○	○	24		カスガマイシン	○										
カスラブサイドゾル	○	○	24		カスガマイシン	○										
ラブサイドフロアブル	○	○	16.1		フサライド	○										
ブラシフロアブル	○	○	U14		フェリムゾン	○			○							
ブラシゾル	○	○	16.1		フサライド	○										
ノンプラスフロアブル	○	○	U14		フェリムゾン	○										
ビームゾル	○	○	16.1		トリシクラゾール	○										
ビームエイトゾル	○	○	16.1		フェリムゾン	○										
ダブルカットフロアブル	○	○	24		トリシクラゾール	○										
フジワン乳剤	○	○	16.1		イソプロチオラン	○										
トップジンMゾル	○	○	6		チオファネートメチル	○										
トライフロアブル		○	U16		テブフロキン	○		○								
トライKフロアブル		○	U16		エチプロール	○		○							○	
バリダシンエアー	○	○	U18		バリダマイシン		○									
バシタックゾル	○	○	7		メプロニル		○									
モンカットフロアブル	○	○	7		フルトラニル		○									
モンセレンフロアブル	○	○	20		ペンシクロン		○									
カスミンバリダシン液剤	○	○	24		カスガマイシン	○										
モンカットラブサイド20フロアブル	○	○	U18		バリダマイシン		○									
ブラシバリダフロアブル	○	○	16.1		フサライド	○										
ブラシバリダゾル	○	○	U14		フルトラニル		○									
アミスターエイト	○	○	U14		フェリムゾン	○			○							
モンガリット1キロ粒剤		○	16.1		フサライド	○										
ラブサイドK2フロアブル	○	○	7		フルトラニル		○									
トレボンエアー	○	○	U14		フェリムゾン	○			○							
トレボンスカイMC	○	○	16.1		フサライド	○										
キラップフロアブル	○	○	U18		バリダマイシン		○									
アブロードゾル	○	○	U14		フェリムゾン	○										
スミチオン乳剤*	○	○	16.1		フサライド	○										
ダントツフロアブル	○	○	2B		エチプロール										○	
ジノテフラン液剤*	○	○	3A		エトフェンブロックス						○	○	○		○	
ジノテフラン1キロH粒剤*		○	3A		エトフェンブロックス						○	○	○		○	
エクシードフロアブル		○	2B		エチプロール						○	○	○			
ラブサイドキラップフロアブル		○	16		ブプロフェジン						○	○				
ラブサイドスタークルフロアブル	○	○	1B		ME P				○						○	
ジノテフラン液剤*	○	○	4A		クロチアニジン						○	○	○			
ジノテフラン1キロH粒剤*		○	4A		ジノテフラン						○	○	○			
エクシードフロアブル		○	4A		ジノテフラン						○	○	○			
ラブサイドキラップフロアブル		○	4C		スルホキサフロル										○	
ラブサイドスタークルフロアブル	○	○	16.1		フサライド	○										
ビームエイトゾル	○	○	2B		エチプロール										○	
ビームエイトスタークルゾル	○	○	16.1		フサライド	○										
ビームエイトスタークルゾル	○	○	4A		ジノテフラン						○	○	○			
ビームエイトスタークルゾル	○	○	16.1		トリシクラゾール	○										
ビームエイトスタークルゾル		○	3A		エトフェンブロックス						○	○	○			
ビームエイトスタークルゾル		○	4A		トリシクラゾール	○					○	○	○			
ビームエイトスタークルゾル		○	4A		ジノテフラン						○	○	○			

ごま葉枯病：ごま葉枯病による「穂枯れ」

※：メーカーによって適用が異なるので、使用方法を確認して使用する。

* ジノテフラン液剤：スタークル液剤10、スタークルメイト液剤10

ジノテフラン1キロH粒剤：スタークル1キロH粒剤、スタークルメイト1キロH粒剤

○農薬によるミツバチへの危害防止について：詳細はP22～23参照

農薬名	有人ヘリコプター	無人航空機	FRACコード	IRACコード	有効成分	適用病害虫名											
						いもち病	紋枯病	稲こうじ病	ごま葉枯病	ニカメイチュウ	フタオビコヤガ	セジロウンカ	ヒメトビウンカ	カメムシ類	コバネイナゴ	イネドロオイムシ	
ビームエイトEXゾル		○	16.1	4C	トリシクラゾール スルホキサフロル	○						○	○	○			
ビームエイトエクシードゾル		○	16.1	4C	トリシクラゾール スルホキサフロル	○						○	○	○			
ダブルカットKフロアブル	○	○	24 16.1	2B	カスガマイシン トリシクラゾール エチプロール	○ ○									○		
ダブルカットエクシードフロアブル	○	○	24 16.1	4C	カスガマイシン トリシクラゾール スルホキサフロル	○ ○									○		
アミスタートレボンSE	○	○	11	3A	アゾキシストロビン エトフェンプロックス	○	○					○	○	○			
エミリアフロアブル		○		4F	フルピリミン								○				○

○農薬によるミツバチへの危害防止について：詳細はP22～23参照

(2) 防除方法

病害虫名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項
いもち病 (葉いもち) 6月20日前後 ～6月末まで (葉いもち) 発生初期 (穂いもち) 出穂直前と穂揃期	次の農薬を散布する。 (粒剤) オリゼメート粒剤20(F:P02) 葉いもち、穂いもちとも次のいずれかを散布する。 (液剤少量散布) カスミン液剤(F:24) カスラブサイドゾル(F:24, 16.1) ラブサイドフロアブル(F:16.1) ブラシソゾル(F:U14, 16.1) ノンプラスフロアブル(F:U14, 16.1) ビームゾル(F:16.1) ビームエイトゾル(F:16.1) ダブルカットフロアブル(F:24, 16.1) フジワン乳剤(F:6) トップジンMゾル(F:1)	○ 粒剤は湛水状態で散布し、散布後7日間は落水・かけ流しをしない。その間の入水は水尻を止めたままで行う。 ○ トリシクラゾールを含む薬剤（ビーム剤、ノンプラス剤、ダブルカット剤）は、野菜類の幼苗、なし（二十世紀、幸水、新水など）及びたばこに飛散すると薬害を生じるおそれがあるので注意する。 ○ 農薬の調合及び積込みに当たっては、ゴム手袋、マスクをつけて直接薬液に触れないように注意し、誤って衣服や皮ふに付着した場合は、直ちに石けんで洗い流す。 ○ 同一系統成分の薬剤の連用は、耐性菌を生じ易いので避ける。その他の耐性菌対策はP39参照。 ○ 散布農薬の飛散によって動植物への危被害、自動車の塗装等に被害を生ずるおそれがあるので、散布区域内の諸物件に十分留意する。 ○ 水源池、飲料用水、養魚池、養魚田等に散布液が飛散流入しないように注意する。 ○ トップジンM剤を使用した場合、多発時には追加防除を行う。
紋枯病 出穂直前	次のいずれかを散布する。 (液剤少量散布) バリダシンエア（F:U18） バシタックゾル(F:7) モンカットフロアブル(F:7) モンセレンフロアブル(F:20)	○ 発生が多い場合は、穂揃期にも散布する。
いもち病 紋枯病 出穂直前～穂揃期	次のいずれかを散布する。 (液剤少量散布) カスミンバリダシン液剤(F:24, U18) モンカットラブサイド20フロアブル(F:7, 16.1) ブラシソバリダゾル(F:U14, 16.1, U18) アミスターエイト(F:11)	○ アゾキシストロビンを含む剤（アミスターエイト）は、りんごの一部品種『あかね、あおり9（彩香）』などに落葉を伴う激しい薬害を生じるので、飛散することのないようにする。
いもち病 ごま葉枯病 (穂枯れ) (出穂直前～穂揃期)	次の農薬を散布する。 (液剤少量散布) ブラシソフロアブル(F:U14, 16.1)	
いもち病 (葉いもち) 紋枯病 ごま葉枯病 (穂枯れ) 6月20日前後～6月末まで	次のいずれかを散布する。 (粒剤) オリブライト250G（無人のみ）(F:11) (液剤少量散布) ブラシソバリダフロアブル(F:U14, 16.1, U18)	○ 粒剤は湛水状態で散布し、散布後7日間は落水・かけ流しをしない。その間の入水は水尻を止めたままで行う。 ○ オリブライト剤は処理後、葉に微細な褐色斑点を生じる場合がある。
いもち病 (葉いもち) 発生初期 (穂いもち) 出穂直前と穂揃期 稲こうじ病 出穂20～10日前	次の農薬を散布する。 (液剤少量散布) トライKフロアブル（無人のみ）(F:U16, I:2B) トライフロアブル（無人のみ）(F:U16)	
紋枯病 稲こうじ病 出穂20～10日前	次の農薬を散布する。 (粒剤) モンガリット1キロ粒剤（無人のみ）(F:3)	○ 粒剤は湛水状態で散布し、散布後7日間は落水・かけ流しをしない。その間の入水は水尻を止めたままで行う。
セジロウカ幼虫 ヒメトビウンカ幼虫 発生初期	次の農薬を散布する。 (液剤少量散布) アプロードゾル(I:16)	
ヒメトビウンカ イネドロオイムシ 発生初期	次の農薬を散布する。 (液剤少量散布) エミリアフロアブル（無人のみ）(I:4F)	

病害虫名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項
ニカメイチュウ カメムシ類 出穂直前～穂揃期	次の農薬を散布する。 (液剤少量散布) スミチオン乳剤※(I:1B)	
セジロウンカ ヒメトビウンカ コバネイナゴ カメムシ類 出穂直前～穂揃期	次の農薬を散布する。 (液剤少量散布) トレボンエアー※(I:3A)	○ 本剤は、コバネイナゴに対して効果が低下している地域があるので注意する。
セジロウンカ ヒメトビウンカ カメムシ類 穂揃期以降	次のいずれかを散布する。 (液剤少量散布) ダントツフロアブル(I:4A) ジノテフラン液剤*(I:4A)	○ ダントツフロアブル及びジノテフラン液剤は、ミツバチに対して特に毒性が強いので注意する。 * [ジノテフラン液剤] スタークル液剤10、スタークルメイト液剤10
カメムシ類 穂揃期以降 ○農薬によるミツバチへの危害防止について：詳細はP22参照 穂揃期～穂揃14日後	次のいずれかを散布する。 (液剤少量散布) トレボンスカイMC※(I:3A) トレボンエアー※(I:3A) キラップフロアブル(I:2B) エクシードフロアブル(無人のみ)(I:4C) トライKフロアブル(無人のみ)(F:U16, I:2B) (粒剤) ジノテフラン1キロH粒剤*(無人のみ)(I:4A)	○ トレボンスカイMCはセジロウンカ、ヒメトビウンカ及びコバネイナゴにも有効である。 ○ ジノテフラン1キロH粒剤は、ミツバチに対して特に毒性が強いので注意する。 ○ ジノテフラン1キロH粒剤は、湛水状態で散布し、散布後7日間は落水・かけ流しをしない。その間の入水は水尻を止めたままで行う。 ○ エクシードフロアブルは穂揃期～穂揃10日後に散布する * [ジノテフラン1キロH粒剤] スタークル1キロH粒剤、スタークルメイト1キロH粒剤
いもち病 カメムシ類 穂揃期まで	次のいずれかを散布する。 (液剤少量散布) ラブサイドキラップフロアブル(無人のみ) (F:16.1, I:2B) ラブサイドK2フロアブル(F:16.1, I:2B) ダブルカットKフロアブル(F:24, 16.1, I:2B) ダブルカットエクシードフロアブル(F:24, 16.1, I:4C)	○ トリシクラゾールを含む薬剤(ダブルカット剤)は、野菜類の幼苗、なし(二十世紀、幸水、新水など)及びたばこに飛散すると葉害を生じるおそれがあるので注意する。
いもち病 セジロウンカ ヒメトビウンカ カメムシ類 出穂直前～穂揃期 穂揃期	次のいずれかを散布する。 (液剤少量散布) ラブサイドスタークルフロアブル(F:16.1, I:4A) ビームエイトトレボンゾル※(F:16.1, I:3A) ビームエイトEXゾル(無人のみ)(F:16.1, I:4C) ビームエイトエクシードゾル(無人のみ)(F:16.1, I:4C) ビームエイトスタークルゾル(無人のみ)(F:16.1, I:4A)	○ トリシクラゾールを含む薬剤(ビーム剤)は、野菜類の幼苗、なし(二十世紀、幸水、新水など)及びたばこに飛散すると葉害を生じるおそれがあるので注意する。 ○ ラブサイドスタークルフロアブル、ビームエイトスタークルゾル、ビームエイトEXゾル、ビームエイトエクシードゾルは、いもち病に対しては穂揃期まで、カメムシ類に対しては穂揃期以降(特に穂揃7～14日後)の使用で、より防除効果が安定する。 ○ スタークル剤は、ミツバチに対して特に毒性が強いので注意する。
いもち病 紋枯病 セジロウンカ ヒメトビウンカ カメムシ類 穂揃期	次の農薬を散布する。 (液剤少量散布) アミスタートレボンSE※(F:11, I:3A)	○ アズキシストロピンを含む剤(アミスタートレボンSE)は、りんごの一部品種『あかね、あおり9(彩香)』などに落葉を伴う激しい葉害を生じるので、飛散することのないようにする。

※：スミチオン(MEP)剤、トレボン(エトフェンプロックス)剤、ジョーカー剤(シラフルオフェン)は、カメムシ類に対しては、穂揃期と穂揃7～10日後の2回散布が必要である。なお、穂揃7～10日後の防除は殺虫剤単剤を散布する。(ただし、いもち病抵抗性が弱い品種で葉いもちが見られる場合や、葉いもちが多発した場合、冷害年の場合など、穂いもちの多発が予想されるときは穂揃7～10日後にも穂いもち追加防除をあわせて行う。)また、使用時期が穂揃期までの剤もあるので注意する。

5. ブームスプレーヤ(速度連動式少量散布機)

(1) 掲載農薬一覧

農薬名	F R A C コ ド	I R A C コ ド	有効成分	適用病害虫名													
				いもち病	紋枯病	ごま葉枯病	イネドロオイムシ	ニカメイチュウ	フタオビコヤガ	セジロウンカ	ヒメトビウンカ	カメムシ類	コバネイナゴ				
ビームゾル	16.1		トリシクラゾール	○													
ノンブラスフロアブル	16.1 U14		トリシクラゾール フェリムゾン	○													
ブラシフロアブル	16.1 U14		フサライド フェリムゾン	○													
ダントツ水溶剤		4A	クロチアニジン				○										
キラップフロアブル		2B	エチプロール				○			○	○	○					

(2) 防除方法

病害虫名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項
いもち病 (葉いもち) 発生初期と まん延期 (穂いもち) 出穂直前と 穂揃期	次のいずれかを散布する。 (液剤少量散布) ビームゾル(F:16.1) ノンブラスフロアブル(F:16.1, U14) ブラシフロアブル(F:16.1, U14)	○ トリシクラゾール剤(ビームゾル、ノンブラスフロアブル)は、野菜類の幼苗、なし(二十世紀、幸水、新水など)及びたばこに飛散すると薬害を生じるおそれがあるので注意する。 ○ 同じRACコードの薬剤の連用は、耐性菌の発生リスクを高めることから、他の防除方法も合わせて連用を避ける。 ○ 散布農薬の飛散によって動植物への危被害、自動車の塗装等に被害を生ずるおそれがあるので、散布区域内の諸物件に十分留意する。 ○ 水源池、飲料用水、養魚池、養魚田等に散布液が飛散流入しないように注意する。
イネドロオイムシ (幼虫) 本田発生初期	次のいずれかを散布する。 (液剤少量散布) ダントツ水溶剤(I:4A) キラップフロアブル(I:2B)	○ ダントツ水溶剤は、ミツバチに対して特に毒性が強いので注意する。詳細はP22~23参照。
カメムシ類 セジロウンカ ヒメトビウンカ 穂揃期 ~穂揃7日後	次の農薬を散布する。 (液剤少量散布) キラップフロアブル(I:2B)	

6. 湛水直播栽培
(1) 掲載農薬一覧

農薬名	F R A C コード	I R A C コード	有効成分	適用病害虫名												
				いもち病	紋枯病	ごま葉枯病	イネミズゾウムシ	イネドロオウムシ	ニカメイチュウ	フタオビコヤガ	セジロウンカ	ヒメトビウンカ	カメムシ類	コバネイナゴ		
ルーチンシードFS	P03		イソチアニル	○												
ヨールシードFS		28	テトラニプロロール				○	○								
アドマイヤー水和剤		4A	イミダクロプリド				○									
Dr.オリゼフェルテラ粒剤	P02		プロベナゾール	○												
		28	クロラントラニプロロール				○									
Cs.オリゼリディアEV箱粒剤	P02	7	プロベナゾール													
		4F	ペンフルフェンフルビリミン				○									
Dr.オリゼリディア箱粒剤	P02		プロベナゾール	○												
		4F	フルビリミン				○	○								
GPオリゼリディア箱粒剤	P02		プロベナゾール	○												
		4F	フルビリミン													
スタウトダントツ箱粒剤	P03		イソチアニル	○												
		4A	クロチアニジン				○									
スタウトダントツ箱粒剤08	P03		イソチアニル	○												
		4A	クロチアニジン				○	○								
デジタルミネクト箱粒剤	16.1		ピロキロン	○												
		28	シアントラニプロロール				○									
箱大臣粒剤	P03	7	イソチアニル	○												
		4A	フラメトビル クロチアニジン				○									
Dr.オリゼパディート粒剤	P02		プロベナゾール	○												
		28	シアントラニプロロール				○									
Dr.オリゼフェルテラ グレートム粒剤	P02	7	プロベナゾール	○												
		28	チフルザミド クロラントラニプロロール				○	○								
ツインターボ箱粒剤08	P03		イソチアニル	○												
		4A	クロチアニジン				○	○								
ブーンパディート箱粒剤	P08		ジクロベンチアゾクス	○												
		28	シアントラニプロロール				○	○								

(2) 防除方法

ア 鉄コーティング種子

病害虫名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項
いもち病 は種前 (浸種前)	次のいずれかの方法で種もみに塗抹する。 ・鉄コーティング前(浸種前)塗抹処理 ルーチンシードFS(F:P03)を乾燥種もみ1kg当たり原液6~12mℓ(ただし原液71mℓ/10aまで)に専用の種子被覆剤(乾燥種もみ1kg当たり2mℓ)を加用してよく混和し、浸種前の種もみ(乾もみ)に塗抹処理し、一晩程度風乾した後に、種子消毒、浸種し、鉄コーティング処理をする。	○ルーチンシードFSで処理した種籾は食料や飼料として使用しないこと。 ○ルーチンシードFSは10a当たりの使用量が原液71mℓまでと決められているので、は種量に気をつけること。
は種前 (浸種後)	・鉄コーティング中塗抹処理 ルーチンシードFS(F:P03)(乾燥種もみ1kg当たり原液6~12mℓ(ただし原液71mℓ/10aまで))を、鉄コーティング処理中の種もみに塗抹処理し、酸化・乾燥させる。 ・鉄コーティング後塗抹処理 ルーチンシードFS(F:P03)(乾燥種もみ1kg当たり原液6~12mℓ(ただし原液71mℓ/10aまで))を、鉄コーティング処理後(酸化後)の種籾に塗抹処理し、一晩程度風乾する。	
イネミズゾウムシ イネドロオウムシ は種前 (浸種後)	次のいずれかの方法で種籾に塗抹する。 ・鉄コーティング中塗抹処理 ヨールシードFS(I:28)(乾燥種もみ1kg当たり原液11mℓ(ただし原液55mℓ/10aまで))を、鉄コーティング処理中の種籾に塗抹処理し、酸化・乾燥させる。 ・鉄コーティング後塗抹処理 ヨールシードFS(I:28)(乾燥種もみ1kg当たり原液11mℓ(ただし原液55mℓ/10aまで))を、鉄コーティング処理後(酸化後)の種籾に塗抹処理し、一晩程度風乾する。	○ヨールシードFSで処理した種籾は食料や飼料として使用しないこと。 ○ヨールシードFSは10a当たりの使用量が原液55mℓまでと決められているので、は種量に気をつけること。

イ 過酸化カルシウム（カルパー）粉衣種子

病害虫名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項
イネミズゾウムシ は種前 (浸種後)	(1)高精度自動コーティングマシンを使用する場合 全行程の3分の1が経過した頃（等倍でのコーティングの場合、コーティング処理開始5分後頃）に回転中のドラム内に規定量のアドマイヤー水和剤(I:4A)を少しずつ速やかに投入する。 (2)コーティングマシンを使用する場合 ア 処理に必要な過酸化カルシウム剤を3つに小分けし、内1つに規定量のアドマイヤー水和剤(I:4A)を入れ攪拌、混合したものを作成する。 イ 最初に過酸化カルシウム剤を粉衣し、次に前述の混合剤を粉衣、最後に再び過酸化カルシウム剤を粉衣する。	○ アドマイヤー水和剤を直接籾に処理すると葉害を生じる恐れがある。 ○ 処理時間はコーティングマシンに規定された時間どおりとする。 ○ マシンに薬剤を投入する際、薬剤が飛散するので防塵マスクやゴーグルを着用する。

ウ 土中施用

病害虫名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項
いもち病 は種時	次の農業をは種時には種同時殺虫殺菌剤施薬機を使用して土中施用する。 G Pオリゼリディア箱粒剤(I:4F,F:P02)	
いもち病 イネミズゾウムシ は種時	次のいずれかを、は種時には種同時殺虫殺菌剤施薬機を使用して土中施用する。 D r.オリゼフェルテラ粒剤(F:P02,I:28) スタウトダントツ箱粒剤(F:P03,I:4A) スタウトダントツ箱粒剤08(F:P03,I:4A) デジタルミネクト箱粒剤(F:16.1,I:28) 箱大臣粒剤(F:P03,7,I:4A) D r.オリゼパディート粒剤(F:P02,I:28)	○ 薬剤が土中に施用されない場合、効果が不安定となるので、は種時のほ場の硬さを確認してから施用する。
いもち病 イネミズゾウムシ イネドロオウムシ は種時	次のいずれかを、は種時には種同時殺虫殺菌剤施薬機を使用して土中施用する。 D r.オリゼフェルテラグレートタム粒剤(F:P02,7,I:28) ブーンパディート箱粒剤(F:P08,I:28) ツインターボ箱粒剤08(F:P03,I:4A) スタウトダントツ箱粒剤08(F:P03,I:4A) D r.オリゼリディア箱粒剤(F:P02,I:4F)	○ 薬剤が土中に施用されない場合、効果が不安定となるので、は種時のほ場の硬さを確認してから施用する。

7. 乾田直播栽培

(1) 掲載農薬一覧

農薬名	F R A C コー ド	I R A C コー ド	有効成分	適用病害虫名												
				いもち病	紋枯病	ごま葉枯病	イネミズゾウムシ	イネドロオウムシ	ニカメイチュウ	フタオビコヤガ	セジロウシ	ヒメトビウシ	カメムシ類	コバネイナゴ		
ルーチンシード F S	P03		イソチアニル	○												
エバーゴルシード F S	7		ペンフルフェン		○											
ヨーバルシード F S		28	テトラニプロール				○									
ルミビア F S		28	クロラントラニプロール				○									

(2) 防除方法

病害虫名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項
いもち病 は種前 (浸種前)	次の方法で種籾に塗抹する。 ルーチンシード F S (F:P03)を乾燥種もみ1kg当たり原液6~12mℓ（ただし原液71mℓ/10aまで）に専用の種子被覆剤（乾燥種もみ1kg当たり2mℓ）を加用してよく混和し、浸種前の種もみ（乾もみ）に塗抹処理し、一晚程度風乾した後に、種子消毒・浸種する。	○ ルーチンシード F Sで処理した種もみは食料や飼料として使用しないこと。 ○ ルーチンシード F Sは10a当たりの使用量が原液71mℓまでと決められているので、は種量に気をつけること。
紋枯病 は種前	次の方法で種籾に塗抹する。 エバーゴルシード F S (F:7)を乾燥種もみ1kg当たり原液5mℓ（ただし原液44mℓ/10aまで）に専用の種子被覆剤（乾燥種もみ1kg当たり2mℓ）を加用してよく混和し、浸種前の種もみ（乾もみ）に塗抹処理し、一晚程度風乾した後に、種子消毒・浸種する。	○ エバーゴルシード F Sで処理した種もみは食料や飼料として使用しないこと。 ○ エバーゴルシード F Sは10a当たりの使用量が原液44mℓまでと決められているので、は種量に気をつけること。
イネミズゾウムシ は種前	次のいずれかの方法で種籾に塗抹する。 ① ヨーバルシード F S (I:28)を乾燥種もみ1kg当たり原液11mℓ（ただし原液55mℓ/10aまで）を種もみ（乾もみ）に塗抹処理し、一晚程度風乾した後に、種子消毒・浸種する。 ② ルミビア F S (I:28)を乾燥種もみ1kg当たり原液4~7mℓを種もみ（乾もみ）に塗抹処理し、一晚程度風乾した後に、種子消毒・浸種する。	○ ヨーバルシード F Sは10a当たりの使用量が原液55mℓまでと決められているので、は種量に気をつけること。 ○ ルミビア F Sは種子処理後に行う種子消毒などの浸漬・浸種期間中の水交換は4回までとする。